

大崎上島町第 3 次地方人口ビジョン（案）

論点事項①：目標人口を目指すことはあくまでも手段であり、その目的について、ご確認頂きたい。【4頁】

- ・全世代の未来の生活・居場所を守る
- ・町民が最期の時まで、安心して、幸せに暮らせるコミュニティを守る

論点事項②：目標人口に加えて、地域幸福度を目標指標に加えることについて、ご確認頂きたい。【28・29頁】

- ・国の方針に基づけば、人口減少対策として人口ビジョンを策定し、目標人口の達成に向けた施策・事業を総合戦略に位置付けることが求められています。
- ・但し、近年のライフスタイルや価値観の多様化を踏まえれば、**目標人口の議論だけでは、町民のニーズに即さない形で政策の方向がミスリードする懸念**もあります。
- ・このため、大崎上島町第3次地方人口ビジョンの結果を踏まえて、**目標人口に加えて、地域幸福度も目標指標として位置付け、町民一人ひとりに寄り添える政策の方向を検討**することが望ましいと考えます。

論点事項③：目標人口の達成に向けて、どのような政策シナリオを目指すか、ご議論頂きたい。【32頁】

- ・目標人口の達成に向けた政策シナリオを検討する上で、転出抑制、転入促進（UIターンなどの層を狙うか）、合計特殊出生率向上の組み合わせと施策強度を決める必要があります。
- ・これらの検討に際しては、**ファクト（事実）に基づく論理的・合理的な意思決定だけでなく、大崎上島町らしさを次世代にどう受け継いでいくか、今後のまちづくりや施策・事業の推進に関わる多様な関係主体の納得感・腹落ち感も重要**です。

論点事項④：地域幸福度を高めるための政策の方向について、ご議論頂きたい。【29頁】

- ・個人、コミュニティの幸福度を高め、総和としての地域幸福度を高めることが重要と考えます。

1. 人口ビジョンの目的・役割	4
(1) 目的	4
(2) 役割	5
2. 大崎上島町の人口動向	6
(1) 自然増減と社会増減	6
(2) 男女別・5歳階級別の人口ピラミッド	7
(3) 転入者の動向	8
(4) 転出者の動向	11
(5) 出生率の動向	12
(6) 人口動向からみる施策介入のポイント	15
3. 趨勢人口（これまでの施策だけでは）の推計	16
(1) 人口推計手法の概要	16
(2) 町全体趨勢人口の超長期推計	18
(3) 地区別趨勢人口の推計	19
4. 人口変化が地域に与える影響	26
(1) 人口変化が地域に与える影響の考察	26
(2) 人口変化と地域幸福度	28
5. 目指す将来像の実現に必要な政策シナリオ	30
(1) 目標人口の設計フロー	30
(2) 人口シミュレーションの手法	31
(3) 人口シミュレーションの結果	32

人口ビジョン策定の目的は、

- ①大崎上島町の全世代の未来の生活・居場所を守り、
- ②町民が最期の時まで、安心して、幸せに暮らせるコミュニティを守るためです

2020年

7,158人
うち、0-4歳人口143人

2050年

これまでの施策だけでは、
人口減少の影響を受けやすい、
生活関連サービス機能の維持が困難に
コミュニティの存続が危ぶまれる地域も

3,905人
うち、0-4歳人口96人
30年間で約3,253人減少
(年平均約108人減少)

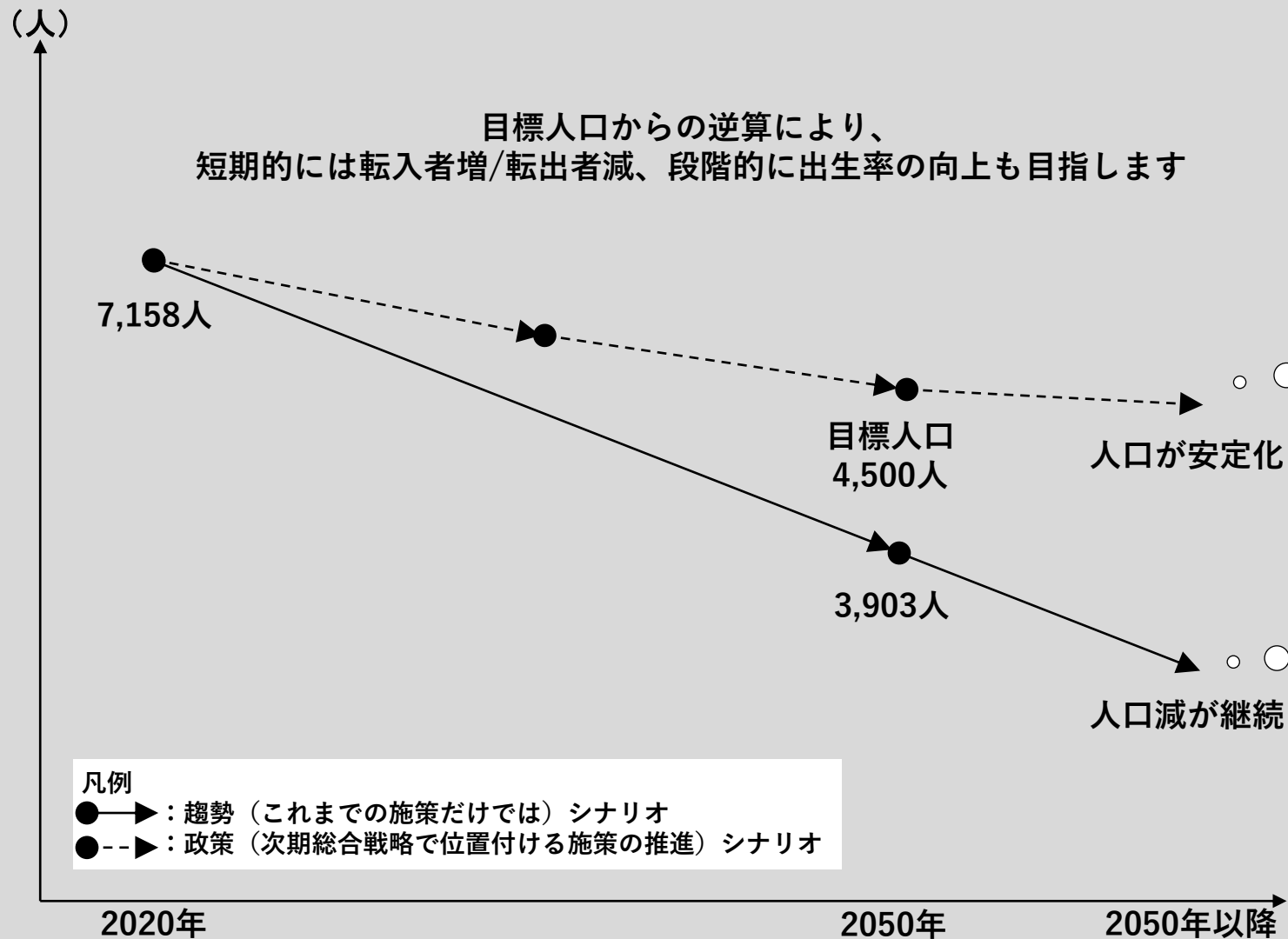


人口ビジョンでは、

大崎上島町が全世代の未来のために守る「生活関連サービス機能」の水準や、
町民が最期の時まで、安心して、幸せに暮らせる「コミュニティ」のあり方を検討し、
そのために必要な目標人口の考え方や守るべき水準を設定します

- ・ 役割①：2050年までの目標人口の段階的な設定
⇒人口変化が地域に与える影響を踏まえて、町・関係者がコミットする2050年までの目標人口を段階的に設定します
- ・ 役割②：2050年以降の人口の持続可能性を高め、目標人口の安定化を図る
⇒2050年以降も目標人口と同水準の人口規模を維持するために必要な政策シナリオを検討します

将来の人口の変化



地域に与える影響

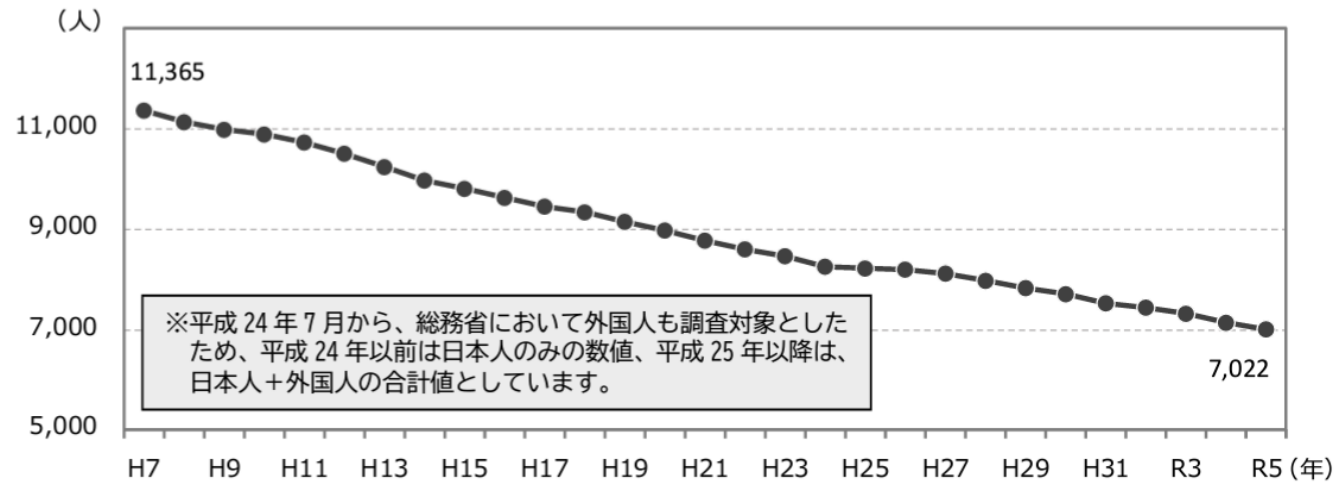
全世代の未来の生活・居場所
町民が最期の時まで、安心して、幸せ
に暮らせるコミュニティを守る

(例示)
・生活関連サービス機能を維持
・コミュニティが存続

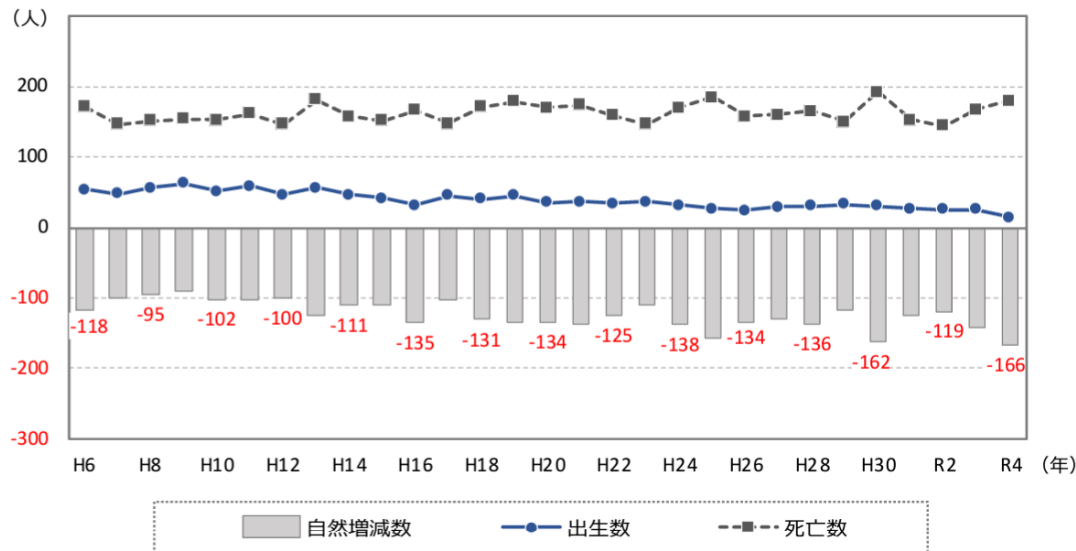
(例示)
・生活関連サービス機能の撤退
・コミュニティの存続が危惧

人口減少が加速、負のスパイラル
存続が危ぶまれる地域も・・・

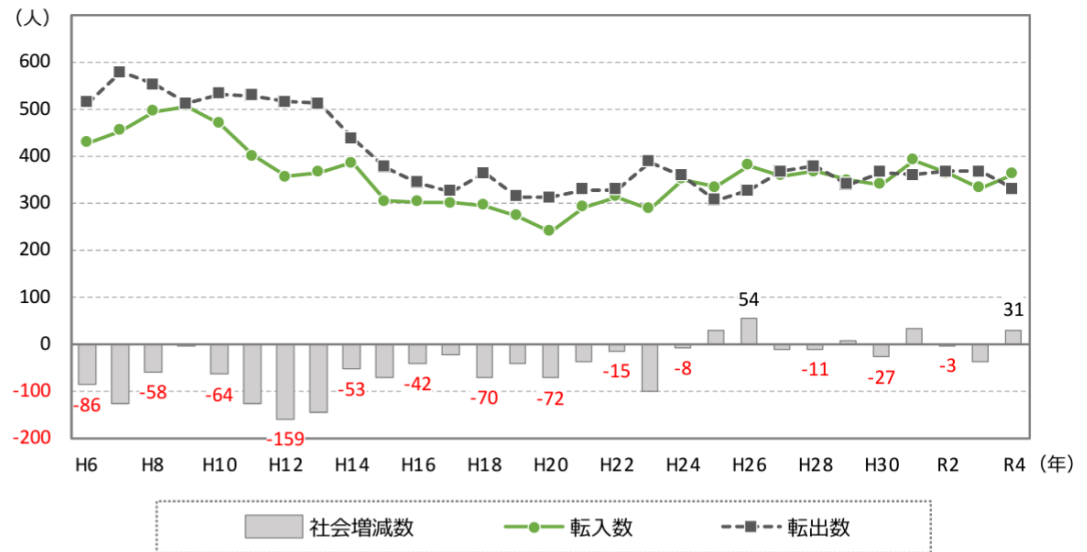
- ・大崎上島町全体の総人口は過去から現在まで減少し続けており、自然減少も同様に進んでいます。
- ・社会増減は各年で変動していますが、平成31年の広島叡智学園の新設等の影響もあり、社会減少は縮小傾向にあります。



■総人口の推移



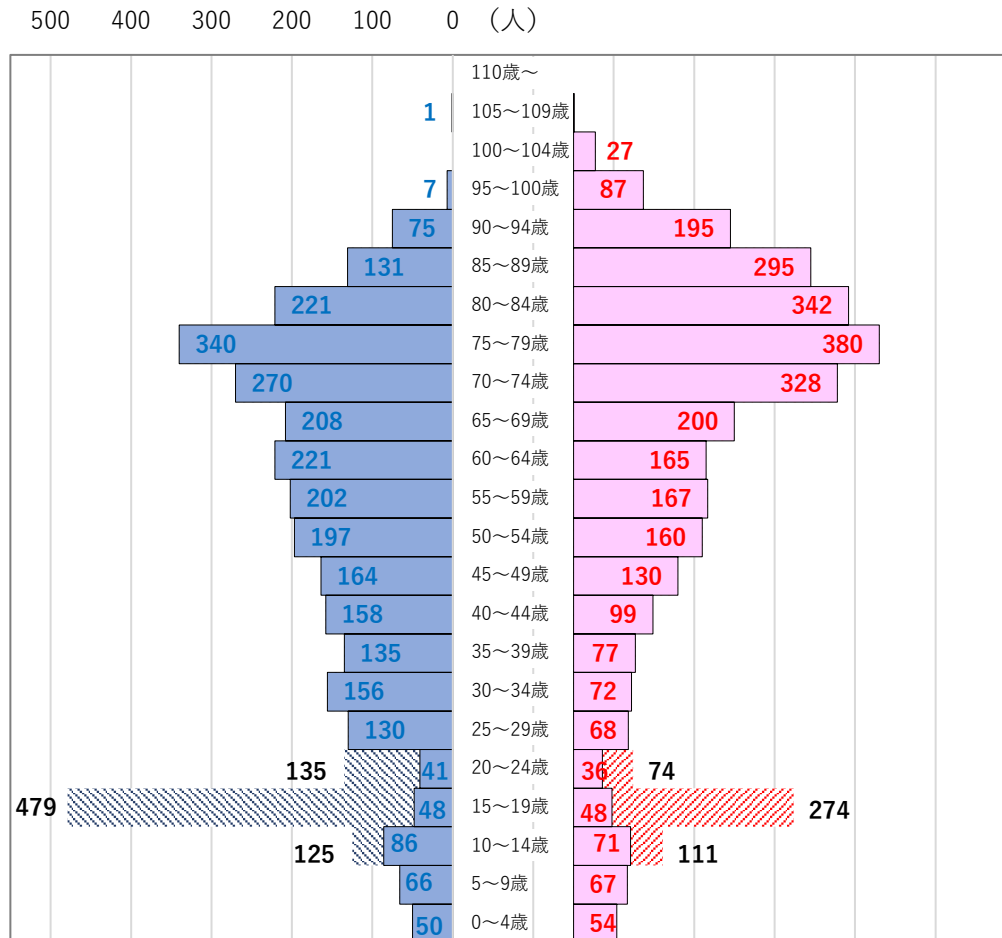
■自然増減の推移



■社会増減の推移

出典：総務省「住民基本台帳」(H6～H24は各年4月1日～翌年3月31日、H25～は各年1月1日～12月31日)

- ・大崎上島町の男女別・5歳階級別の人口ピラミッドをみると、以下の特徴を有します。
 ⇒①高齢化率が高い、②女性比率が低く子どもが増えにくい、③広島商船高専・広島叡智学園を除くと若年人口は少ない



●大崎上島町の人口構造の特性①

- ・65歳以上の高齢化率が高い

●大崎上島町の人口構造の特性②

- ・25-64歳の人口の男女比をみると、女性比率が低い
 ⇒出生率の分母である女性が少ないと、子どもが増えにくい

●大崎上島町の人口構造の特性③

- ・広島商船高等専門学校及び広島叡智学園の影響で若年人口が多い
- ・**広島商船高等専門学校の卒業生の町外転出率は98%**と高く（令和5年）、広島叡智学園の町外転出率も今後高くなると思料
- ・このため、**10-24歳の人口が、5年・10年・20年後の25歳以上の人口構造に与える影響は小さい**といえる

- 男性 (広島商船高等専門学校+広島叡智学園の学生数を含む)
 ■ 男性 (広島商船高等専門学校+広島叡智学園の学生数を除く)
 ■ 女性 (広島商船高等専門学校+広島叡智学園の学生数を除く)
 ■ 女性 (広島商船高等専門学校+広島叡智学園の学生数を含む)

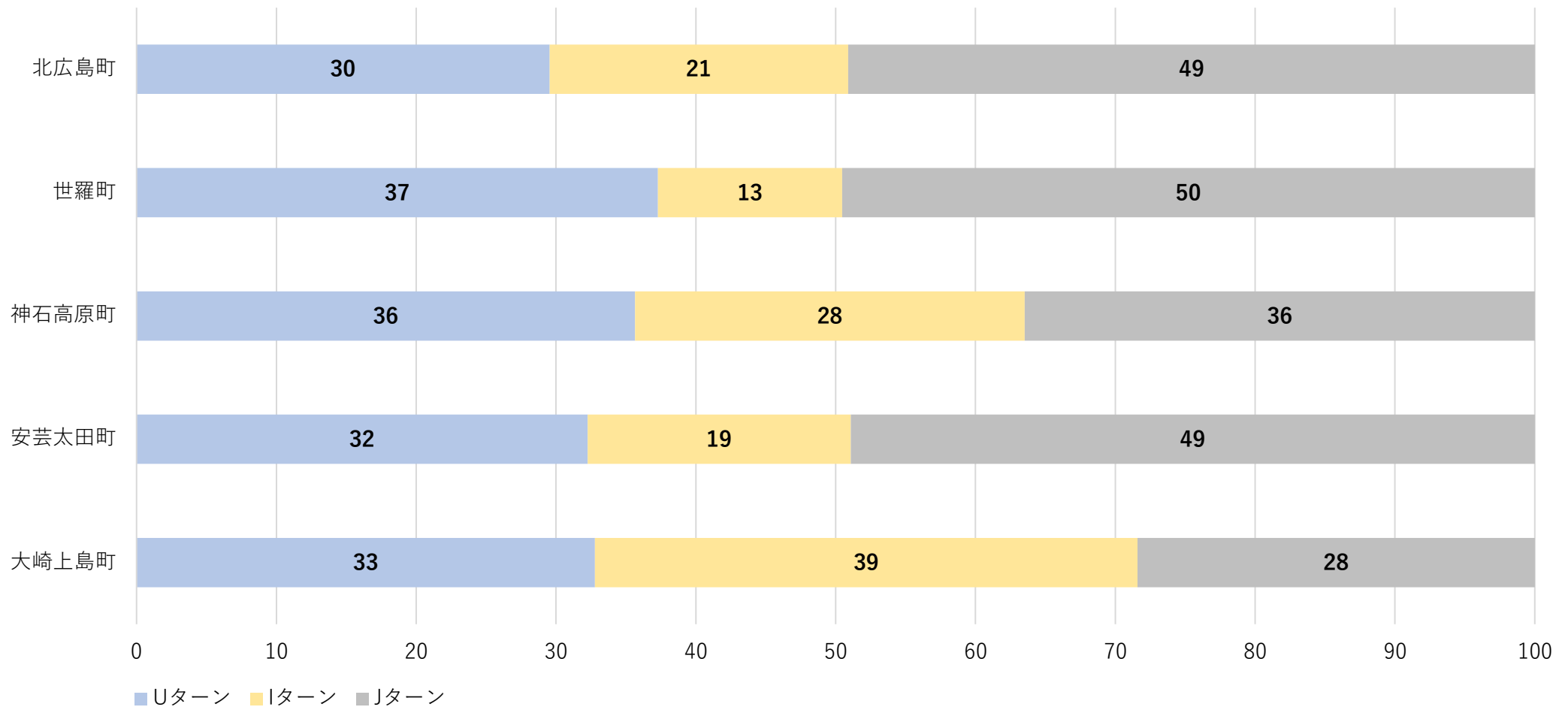
■男女別・5歳階級別の人口ピラミッド

出典：総務省「住民基本台帳」（令和6年10月1日時点）、令和6年10月1日の学生数

注：15-19歳人口（広島商船高等専門学校+広島叡智学園の生徒数を除く）は、広島県立大崎海星高等学校の男性・女性の生徒数を記載。

- ・人口規模が類似する北広島町、世羅町、神石高原町、安芸太田町とUIターン割合を比較すると、**大崎上島町はIターン割合が高く、Jターン割合が低いことが特徴**としてあげられます。
- ・Uターン割合は、他自治体と比較しても、大きな差が見受けられません。

■大崎上島町及び人口規模が類似する広島県内他自治体とのUIターン割合の比較（平成30年10月～令和5年9月の5年間）

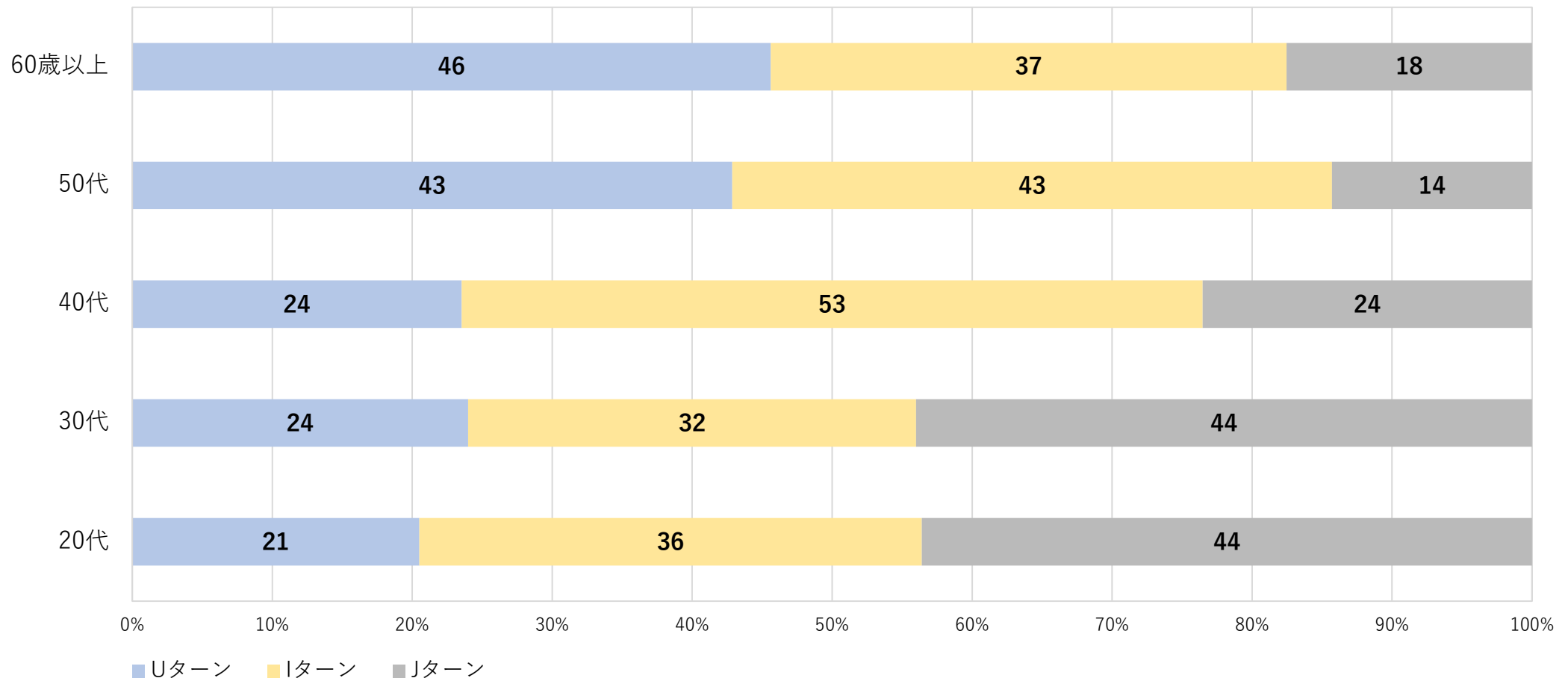


出典：広島県人口移動統計調査（乙調査）（平成30年10月～令和5年9月）

注：Uターンは15歳時の住所と大崎上島町、Iターンは15歳時の住所が広島県外、Jターンは15歳時の住所が広島県内大崎上島町以外（以降、同様）

- ・ 全ての年齢層において、Iターン割合が高い傾向にあり、40代では53%と最も高いです。
- ・ 一方で、年齢層が上がるほど、Uターン割合が高くなる傾向にあり、特に50代・60歳以上で高いです。
⇒ ライフステージ的には、夫婦の場合、子どもが成人して子育てがひと段落したタイミングと史料
- ・ 大学等卒業後の新卒就職時である20代のUターン割合が低く、改善の余地があります。

■ 年齢階級別・UIターン割合（平成30年10月～令和5年9月の5年間）



出典：広島県人口移動統計調査（乙調査）（平成30年10月～令和5年9月）

注：Uターンは15歳時の住所と大崎上島町、Iターンは15歳時の住所が広島県外、Jターンは15歳時の住所が広島県内大崎上島町以外（以降、同様）

【Iターン者の特徴】

- ・20・30代は、就職、転業・転職、結婚を理由にIターンしてくる方が多いです。
⇒就業機会や所得向上だけでなく、子どもを産んで、育てやすい環境づくりも重要と思料
- ・40・50代は、その他を除けば、就職、転勤、転業・転職を理由にIターンしてくる方が多いです。
- ・60歳以上は、その他を除けば、就職を理由にIターンしてくる方が多いです。

【Uターン者の特徴】

- ・20・30代は転業・転職、40・50代は介護、60歳以上は退職・廃業を理由にUターンしてくる方が多いです。
⇒ライフステージに沿った移動理由であり、継続してライフステージに対応した施策の推進が重要

【Jターン者の特徴】

- ・20・30代は就職、40・50代は通勤・通学の便、住宅事情、60歳以上はその他を理由にJターンしてくる方が多いです。

■年齢階級別・UIJ別・移動理由別の割合（平成30年10月～令和5年9月の5年間）

単位：％（サンプル数以外）

区分		就職	転勤	転業・転職	退職・廃業	入学・転校	通勤・ 通学の便	結婚・離婚・ 養子縁組	子育て環境上の 理由	介護	住宅事情	その他	サンプル数
20・30代	Uターン	9	9	55	9	0	0	0	0	0	0	18	11
	Iターン	32	0	32	0	0	0	21	5	0	0	11	19
	Jターン	40	0	28	0	0	8	12	4	0	4	4	25
40・50代	Uターン	13	6	0	13	0	0	0	0	19	6	44	16
	Iターン	18	12	12	0	0	0	6	0	6	6	41	17
	Jターン	14	0	14	0	0	29	0	14	0	29	0	7
60歳以上	Uターン	0	0	5	35	0	0	0	0	5	10	45	20
	Iターン	28	0	6	11	0	0	0	0	11	6	39	18
	Jターン	0	14	0	14	0	0	0	0	14	0	57	7
合計	Uターン	6	4	15	21	0	0	0	0	9	6	38	47
	Iターン	26	4	17	4	0	0	9	2	6	4	30	54
	Jターン	28	3	21	3	0	10	8	5	3	8	13	39
合計	合計	20	4	17	9	0	3	6	2	6	6	28	140

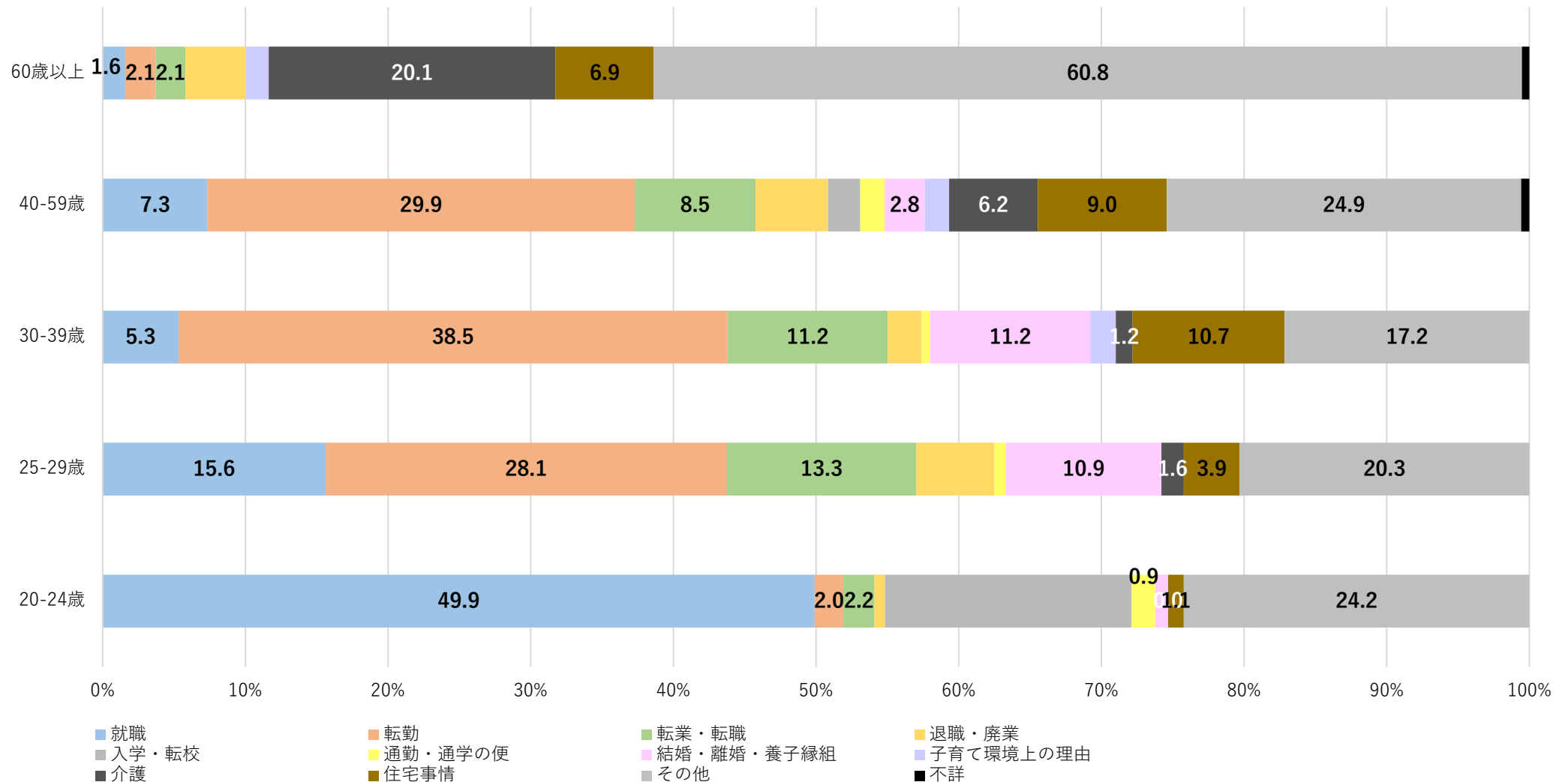
出典：広島県人口移動統計調査（乙調査）（平成30年10月～令和5年9月）

注1：Uターンは15歳時の住所と大崎上島町、Iターンは15歳時の住所が広島県外、Jターンは15歳時の住所が広島県内大崎上島町以外（以降、同様）

注2：移動理由は主因者を対象として集計

- ・20-24歳転出者は就職理由が最も多く、25-59歳は転勤理由が最も多く、就職・転職・結婚・住宅事情の理由も多いです。
⇒転勤に対する政策関与は難しいが、**就職・転職・結婚・住宅事情の転出割合は30-40%と高く、転出抑制策が重要**
- ・60歳以上転出者は「その他」理由が60%と高く、その理由の詳細を把握することが重要です。

■年齢階級別・移動理由割合（平成30年10月～令和5年9月の5年間）



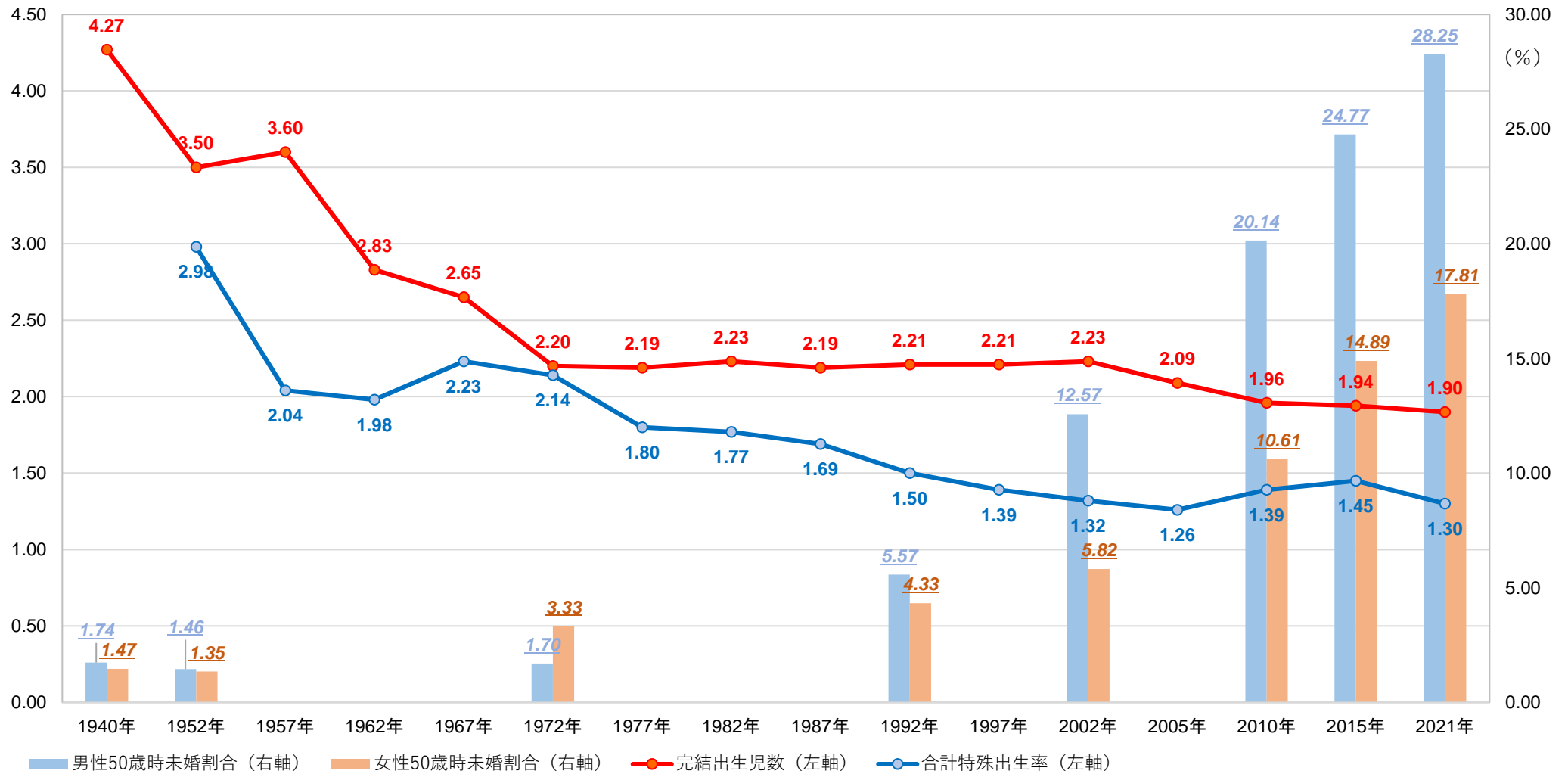
- ・出生率とは、当該地域における出生力を示す指標ですが、類似の指標が多く存在します。
- ・大崎上島町第3次地方人口ビジョン、総合戦略では、①合計特殊出生率、②子ども女性比、③完結出生児数の出生率指標を活用するため、以下の各指標の概要を示します。
⇒第3次地方人口ビジョンにおける将来人口推計で活用する指標：子ども女性比（合計特殊出生率も参考に並記）

■出生率指標の概要

出生力指標	計算概要	既往統計の存在	備考
合計特殊出生率	<ul style="list-style-type: none">・15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計 ⇒分子：子どもの数 ⇒分母：未婚女性＋既婚女性＋その他(事実婚等)	<ul style="list-style-type: none">・厚生労働省「人口動態統計」・市町村の合計特殊出生率は5年毎に公表	<ul style="list-style-type: none">・一般的に認知されている出生率指標であり・人口置換水準(親世代と子世代の人数が等しくなる水準)として合計特殊出生率2.07が良く使われる
子ども女性比	<ul style="list-style-type: none">・20歳から44歳までの女子の人口に対する0-4歳までの子どもの人口の比 ⇒分子：子どもの数 ⇒分母：未婚女性＋既婚女性＋その他(事実婚等) ※従来は15歳から49歳までの女子の人口に対する0-4歳までの子どもの人口の比であったが、日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）より変更が生じている	<ul style="list-style-type: none">・総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、総務省「国勢調査」・住民基本台帳では1年毎に作成可能・国勢調査では5年毎に作成可能	<ul style="list-style-type: none">・合計特殊出生率の代替指標として、国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口で活用
完結出生児数	<ul style="list-style-type: none">・結婚持続期間が15～19年の初婚どうしの夫婦の平均出生子ども数 ⇒分子：子どもの数 ⇒分母：既婚女性（概ね50歳未満）	<ul style="list-style-type: none">・国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査（夫婦調査）」・概ね5年毎に全国値を公表	<ul style="list-style-type: none">・市町村値の算出は不可能

- ・完結出生児数は2010年以降、2.0を下回っていますが、**既婚女性が生涯に産む子どもの数に大きな変化はありません。**
- ・**合計特殊出生率は年々低下傾向にあり、同時に、男性・女性の50歳時未婚割合(生涯未婚割合)は上昇傾向にあります。**
- ・上記より、**合計特殊出生率の低下は、男性・女性の未婚割合の上昇が主な原因**と史料されます。

■ 全国の出生率指標の長期的推移

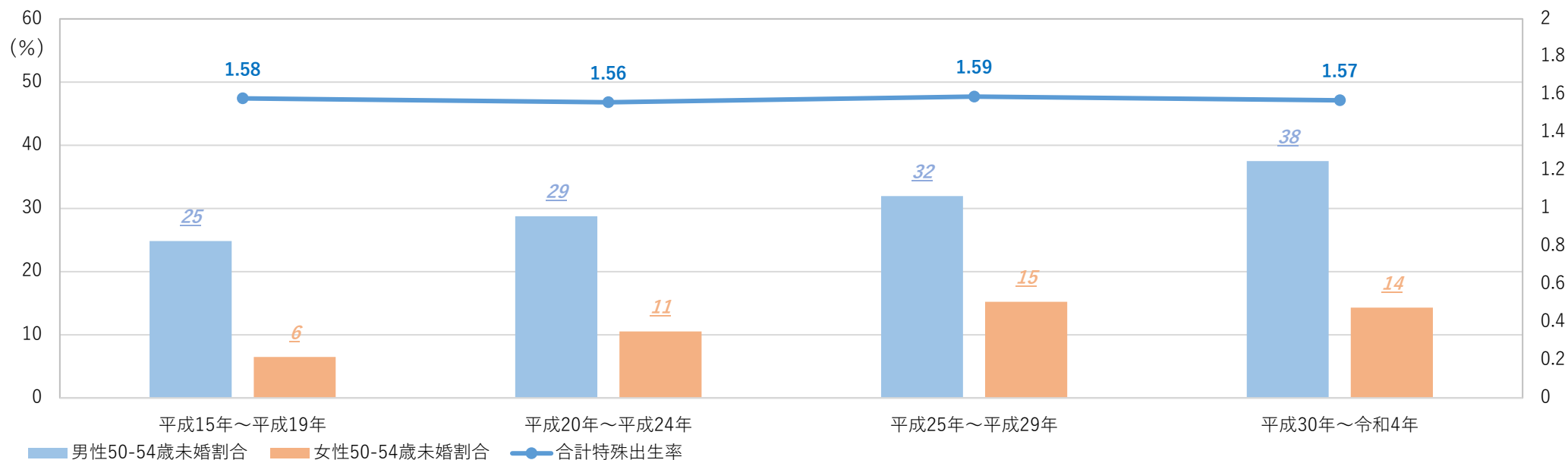


出典：完結出生児数は国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2021年）、男性50歳時未婚割合・女性50歳時未婚割合は国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（2022年）、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態調査」を活用

注：完結出生児数及び合計特殊出生率の調査年度を基本として、男性・女性50歳時未婚割合の調査結果を当てはめており、必ずしも調査年度は一致しない。

- ・大崎上島町の合計特殊出生率は横ばい傾向にありますが、全国の合計特殊出生率を上回ります。
- ・男女共に50-54歳未婚割合が増加傾向にあり、**合計特殊出生率が向上しにくい要因として、未婚割合の増加が思料**されます。
- ・合計特殊出生率の向上に向けては、**①子どもが欲しい既婚者を対象に第1子・第2子を産んで、子育てし易い環境づくりを推進、②結婚したい町民を対象に生涯未婚率を下げる施策の推進、**などが考えられます。

■大崎上島町の出生率指標の長期的推移



出典：合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態調査」、男性50-54歳未婚割合・女性50-54歳未婚割合は総務省「国勢調査」を活用

注：男性50-54歳未婚割合、女性50-54歳未婚割合は2005年、2010年、2015年、2020年の値

■出生率への施策介入のポイント

子どもの数

合計特殊出生率＝

未婚者＋既婚者＋その他

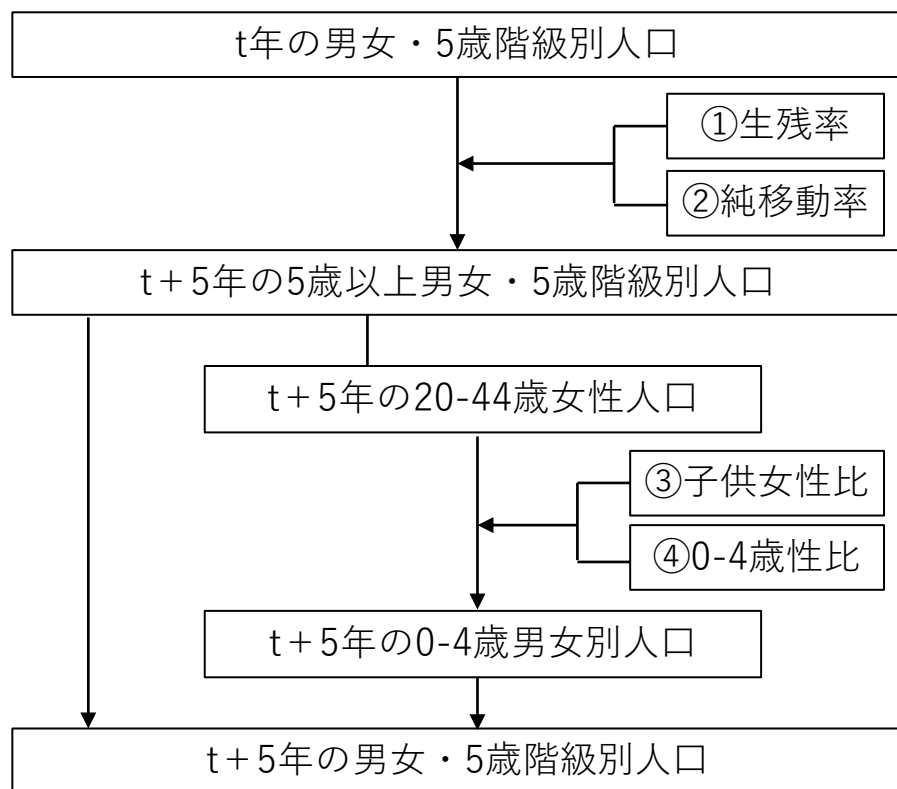
①子どもが欲しい既婚者が対象
・第1子、第2子を産んで、子育てし易い環境づくり

②結婚したい町民が対象
・生涯未婚率を下げる施策の推進

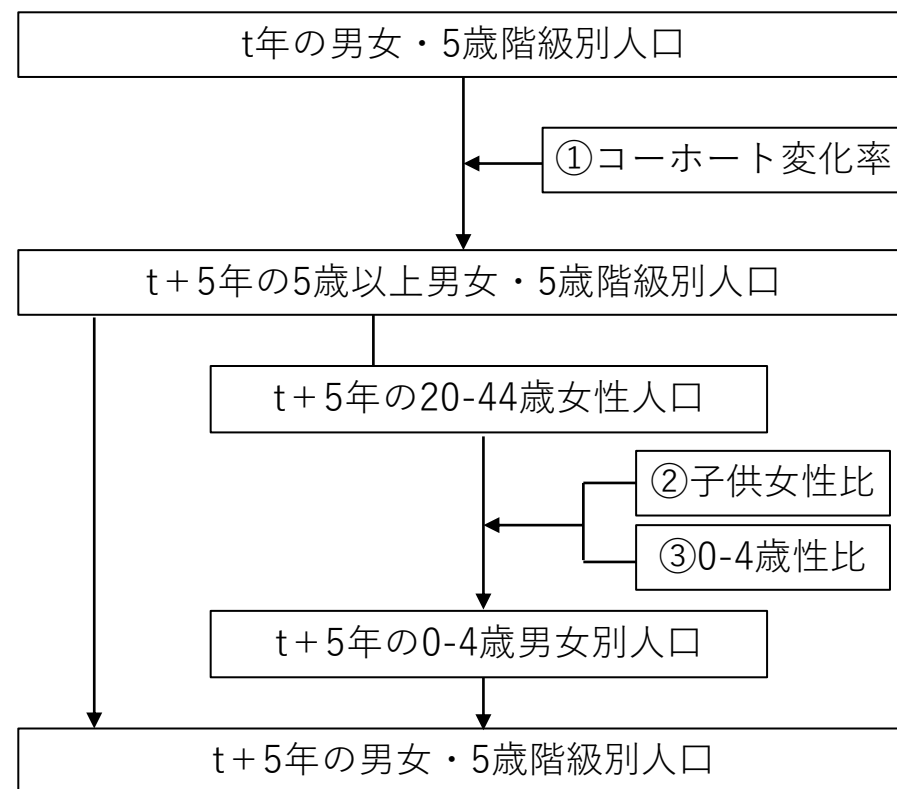
人口動向の指標		指標の特徴と施策介入のポイント
転出	転出 (若年以外)	●指標の特徴 ・短期的には成果を出しにくい、長期的には安定的な成果を出し得る指標と史料します。 ●施策介入のポイント ・就職、転職、結婚、住宅事情を理由とした転出割合が高い傾向にあるため、この対応策が必要です。 ・ コミュニティの共助力を高めて、町民同士の助け合いや支え合いの地域風土を受け継いでいく ことも重要です。
	転出 (若年)	●指標の特徴 ・高校卒業時のタイミングで周期的に繰り返されます。 ●施策介入のポイント ・学生が高校卒業のタイミングで町外に転出する前に、 地域への愛着を高める ことが重要です。 ・町外に転出する前に、 町からの情報発信を受け取って頂くためのプラットフォームに登録頂く ことも重要です。
転入	Iターン	●指標の特徴 ・短期的には成果を出しやすいですが、長期で安定的に成果を出しにくい指標と史料します。 ・ 日本全体で移住誘致競争が続く中、持続的な成果創出に繋がりにくいターゲット とも言えます。 ●施策介入のポイント ・移住推進施策はプル施策とプッシュ施策の2タイプが存在します。 ⇒プル施策：移住支援補助金、県主催の移住イベントに参加、移住者向けツアーの開催 等 ⇒プッシュ施策：ブランディング等により、移住候補者の行動変容を促進 等 ・プッシュ施策により、 大崎上島町のことを理解し、まちのことが好きな方に移住頂く 方針が良いものと思料します。
	Jターン	
	Uターン	●指標の特徴 ・短期的には成果を出しにくいですが、長期的には安定的な成果を出し得る指標と史料します。 ●施策介入のポイント ・ 出身者のプラットフォームの構築と定期的な情報発信により、ライフステージの各タイミングでUターンの選択を選んで頂く 方針が良いものと考えます。 ⇒新卒就職時の地元企業のインターンシップ、結婚・転職、親の介護、定年退職時 等
出生		●指標の特徴 ・短期的には成果を出しにくいですが、長期的には安定的な成果を出し得る指標と史料します。 ⇒ 中長期的な視点で、段階的に合計特殊出生率を高めていくスタンスが重要 ●施策介入のポイント ・ 日本全体で人口が減少し続ける中、転入促進だけでは人口の安定化は難しい と思料します。 ・子どもが欲しい既婚者を対象に、第1子、第2子を産んで、子育てし易い環境づくりを推進することが重要です。 ・ 結婚したい町民を対象に、生涯未婚率を下げる施策を推進すること も重要です。
死亡		・町政としては健康寿命の延伸等の施策を推進しますが、総合戦略では対象外とします。

- ・将来人口推計手法は「コーホート要因法」及び「コーホート変化率法」に大別され、一般的にはコーホート変化率法と比較して、コーホート要因法の方が将来人口の推計精度が高いです。
- ・このため、大崎上島町の将来人口推計はコーホート要因法を適用します。但し、地区別将来人口推計では、地区別の①生存率・②純移動率の算出が難しいため、コーホート変化率法を適用します。
- ・なお、将来人口は大崎上島町の値をトータル値とし、地区別の将来人口との整合を図ります。

■コーホート要因法による推計フロー



■コーホート変化率法による推計フロー



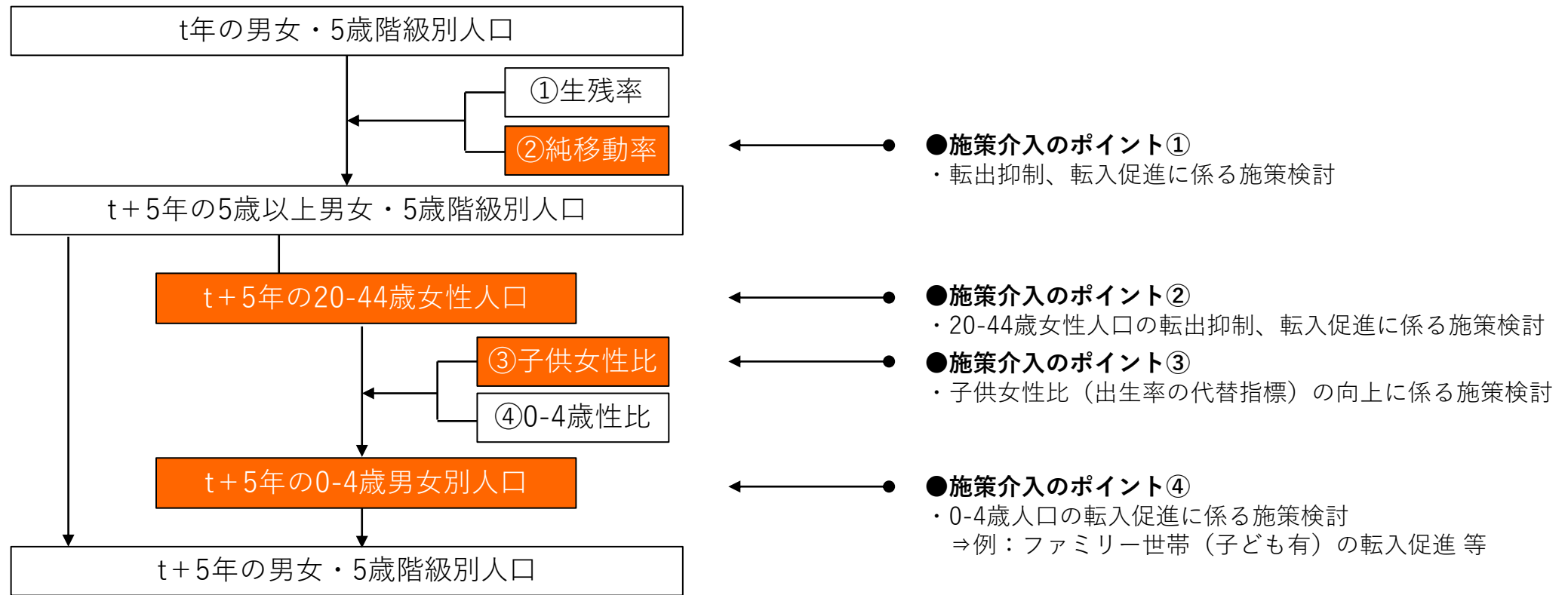
t=2020 (将来人口推計における基準年)

【将来人口推計で活用するパラメータ (①～④) のイメージ】

- ・生存率は死亡率、純移動率は転入率-転出率、子供女性比は出生率、0-4歳性比は生まれてくる子供の性別の確率
- ・コーホート変化率は生存率と純移動率を一つのパラメータに置換 (転入率-転出率-死亡率のイメージ)

・人口推計フローからみる施策介入のポイントは以下のとおりです。

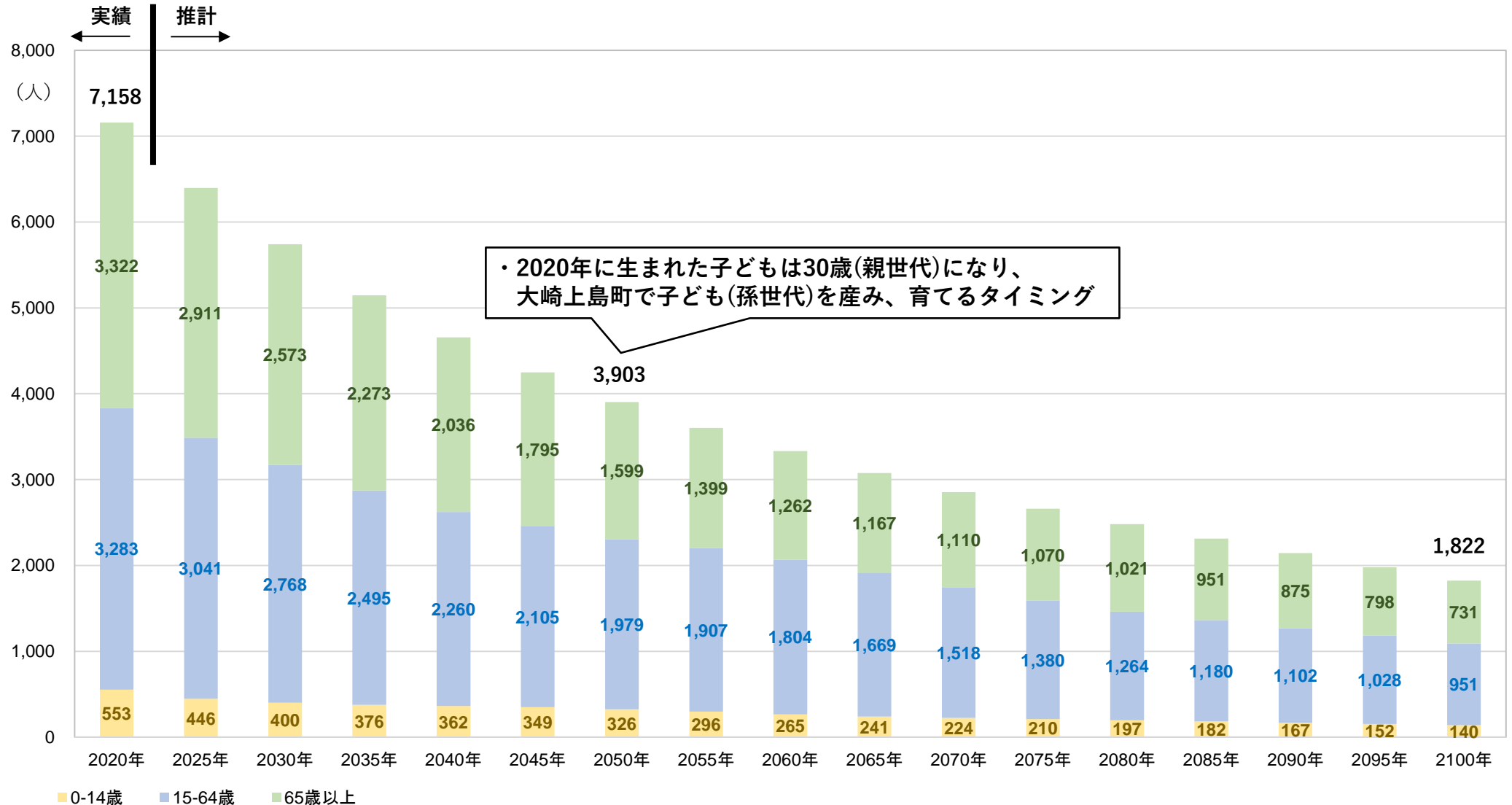
■人口推計フローからみる施策介入のポイント



t=2020（将来人口推計における基準年）

- ・趨勢人口の推計結果は以下のとおりで、**これまでの施策だけでは、人口は下げ止まることなく減少し続けます。**
- ・全世代の未来の生活・居場所を守るためにも、**人口減少の緩和を図り、安定化を目指すことが重要**です。

■大崎上島町全体の趨勢人口の超長期推計（基準年人口：2020年）



出典：国立社会保障・人口問題研究所 都道府県・市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別将来推計人口-『日本の地域別将来推計人口』（令和5（2023）年推計）をベースに2055年以降の超長期推計を実施

【推計の目的】

- ・コミュニティの将来人口の動向を確認（客観的に数値で将来動向を把握することが重要）

【地区の単位】

- ・36地区中

【基準年人口】

- ・2020年の住民基本台帳の人口（36地区別のデータが住民基本台帳でしか把握できないため、住民基本台帳を活用）

【性別・5歳階級別のコーホート変化率】

- ・2015年及び2020年の住民基本台帳を活用して、地区別に算出
 - コーホート変化率が0又はエラー値の場合は0.1に置換
 - コーホート変化率が3以上の場合は町全体のコーホート変化率で代替
 - 広島商船高等専門学校、広島叡智学園、学習交流センターの人口はコーホート変化率の計算に含めない
- ・2015年→2020年のコーホート変化率が将来においても同様と仮定

【子ども女性比（20-44歳女性人口に対する0-4歳人口の比）】

- ・2020年の住民基本台帳を活用して、地区別に算出
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」において公表される、大崎上島町の子ども女性比の将来の変化率を地区別の現況の子ども女性比に乗じることにより、将来値を設定

【0-4歳性比】

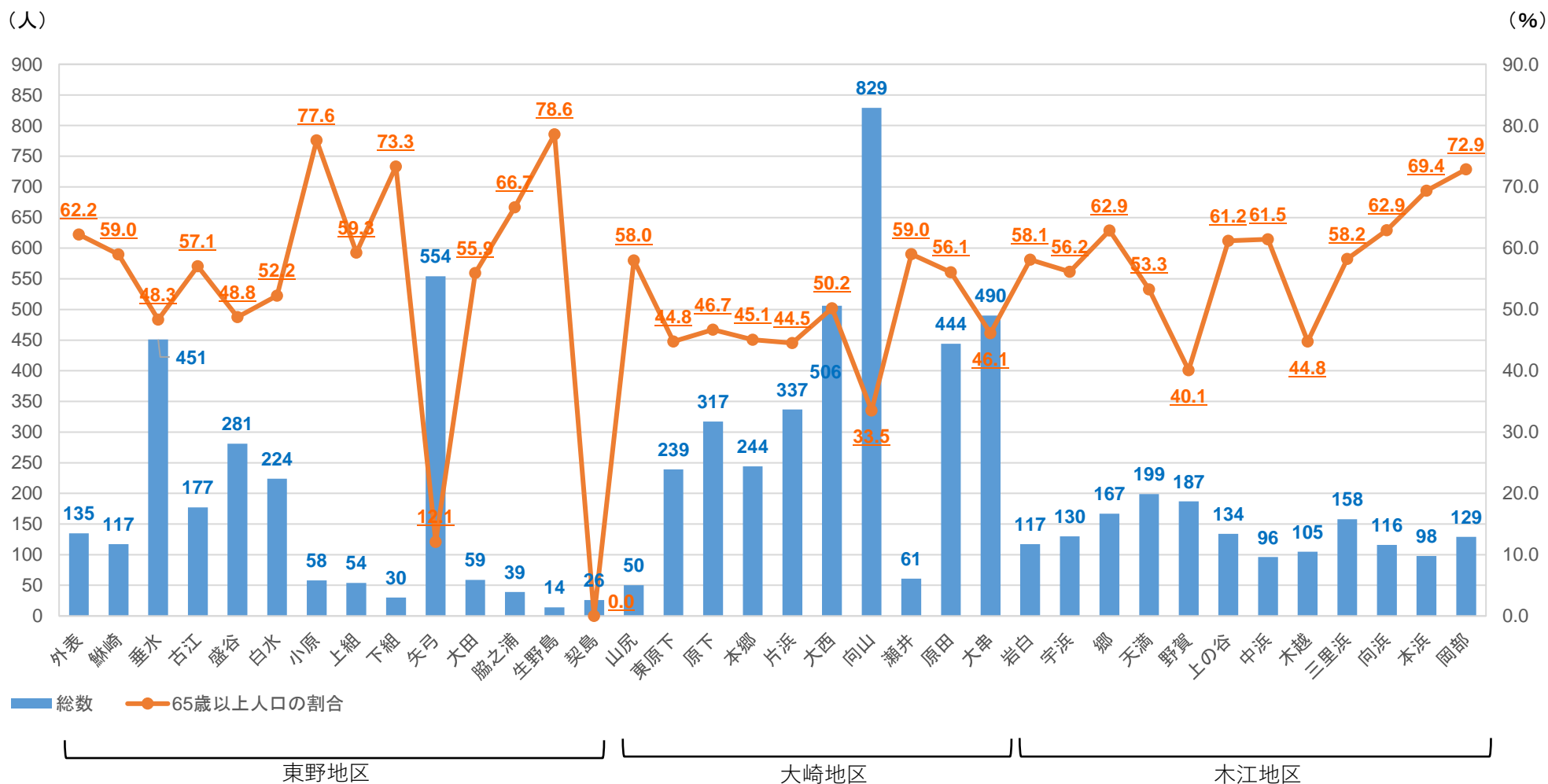
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」において公表される、大崎上島町の0-4歳性比の値を各地区の0-4歳性比として設定

【地区別趨勢人口の補正】

- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の公表値を活用した補正は実施しない
 - ⇒地区別趨勢人口の推計では、住民基本台帳データを活用しており、国勢調査と定義が異なるため
 - ⇒広島叡智学園を含む大串地区、広島商船高専を含む矢弓地区の将来人口推計が困難なため

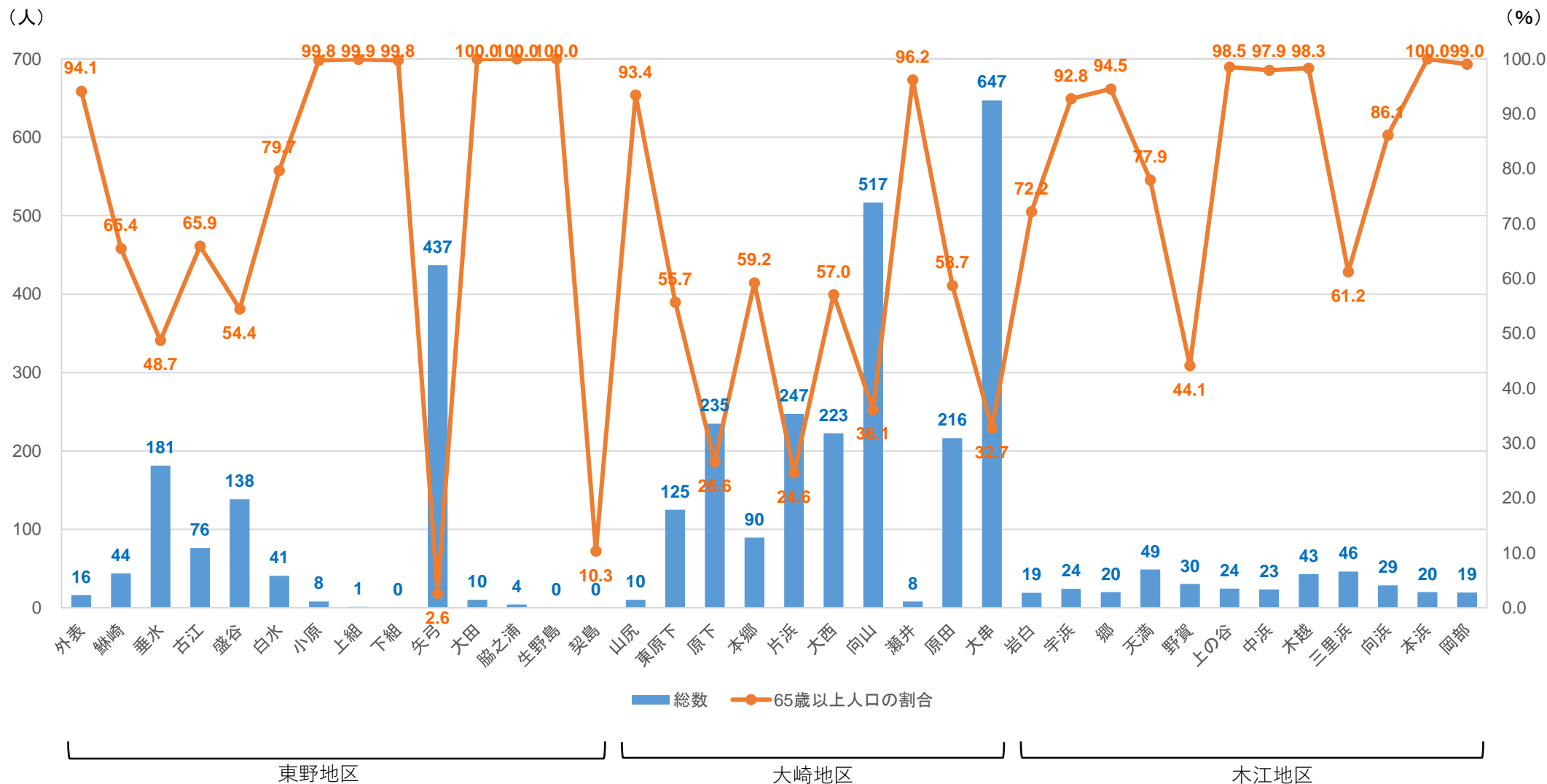
- ・地区別（36地区別）の2020年基準年人口は以下のとおりです。
- ・社会的共同生活の維持が極限に達している状態として、「危機的集落」の定義が存在します。「**危機的集落**」とは、①人口比率の70%以上が65歳以上、②集落内に9軒以下（1軒2人換算で総人口18人目安）と言われています。
- ・大崎上島町においても、これまでの施策だけでは、危機的集落の基準に該当する地区が増えることが懸念されます。

■地区別の2020年総人口と65歳以上人口の割合



・これまでの施策だけでは、2050年には「危機的集落」の①人口比率の70%以上が65歳以上、②集落内に9軒以下（1軒2人換算で総人口18人目安）の条件を満たす地区が多く発生する可能性があります。

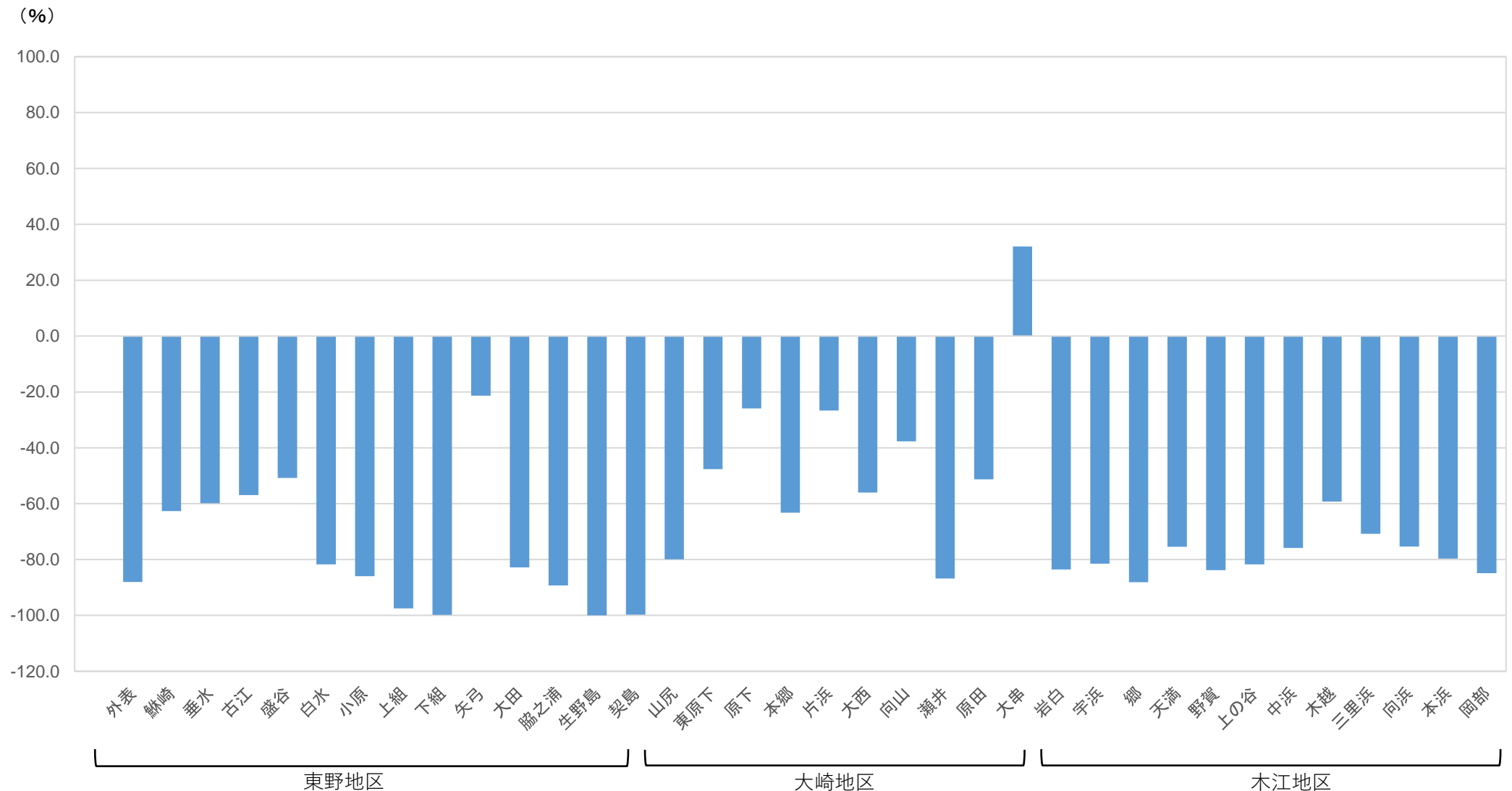
■地区別の2050年総人口と65歳以上人口の割合



注：2015年から2020年の5年間の人口変化（トレンド）を将来に適用して、国推計値でトータル値補正を実施していない

- ・地区別の人口増減率 (2020年⇒2050年) は以下に示す結果となります。
- ・人口が増加する地区も存在しますが、多くの地区で人口は減少し続け、木江地区では全地区で減少率50%を超えます。

■地区別の人口増減率 (2020年⇒2050年)



注：2015年から2020年の5年間の人口変化（トレンド）を将来に適用して、国推計値でトータル値補正を実施していない

●表の読み方

- 例えば、山尻地区の男性・25-29歳のコーホート変化率2.000の場合
⇒2020年に25-29歳人口が8人の場合、5年後の2025年は30-34歳人口は16人（5年間の転出＋転入が含まれる）

●コーホート変化率の活用における留意事項

- 2015⇒2020の5年間のトレンド（変化率）が将来においても同様として計算しています。
- 2015⇒2020の5年間のトレンド（変化率）が0又はエラーの場合、0.1として計算しています。

地区	期間	男性 0～4歳	男性 5～9歳	男性 10～14歳	男性 15～19歳	男性 20～24歳	男性 25～29歳	男性 30～34歳	男性 35～39歳	男性 40～44歳	男性 45～49歳	男性 50～54歳	男性 55～59歳	男性 60～64歳	男性 65～69歳	男性 70～74歳	男性 75～79歳	男性 80～84歳	男性 85～89歳	男性 90～94歳
外表	2015→2020	0.100	1.000	1.000	0.500	0.500	2.000	0.100	0.100	1.000	0.667	1.111	0.750	1.000	1.000	1.111	0.667	0.714	0.100	0.500
峠崎	2015→2020	1.000	1.000	1.000	1.000	0.333	1.000	1.667	0.800	1.000	1.000	2.000	1.000	1.000	1.000	0.750	0.714	1.000	0.667	1.000
垂水	2015→2020	0.727	0.800	1.857	0.813	0.500	1.000	1.083	0.917	0.933	0.875	1.200	1.091	1.059	0.815	0.964	0.824	0.412	0.400	0.500
古江	2015→2020	1.000	0.100	0.100	1.750	1.333	0.100	1.333	1.000	1.500	1.000	1.000	1.000	1.200	0.909	1.143	0.750	0.714	0.500	0.500
盛谷	2015→2020	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	2.333	1.167	0.857	1.000	1.000	1.111	1.067	1.000	0.938	0.923	0.778	0.875	0.333	0.100
白水	2015→2020	0.500	1.000	0.857	1.333	0.818	0.667	0.800	0.250	0.909	1.000	1.000	1.400	0.571	0.929	0.857	0.833	0.714	0.100	0.100
小原	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.667	0.100	1.000	1.000	0.800	1.000	0.889	0.100	0.100
上組	2015→2020	1.000	0.100	0.100	0.500	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.500	1.000	1.000	0.100	1.000	0.500	0.600	0.600	0.100	0.100
下組	2015→2020	0.100	1.000	1.000	0.100	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	1.000	1.000	0.100	1.000	0.500	0.100	0.100
矢弓	2015→2020	0.333	0.500	0.100	0.600	0.600	0.833	0.800	0.400	0.667	0.667	1.000	0.500	1.000	0.800	1.000	1.000	0.600	0.750	0.100
大田	2015→2020	0.100	1.000	1.000	1.000	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	1.500	1.000	0.750	0.750	1.000	1.000	0.500	0.100	0.100
脇之浦	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.500	1.000	1.333	0.500	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.100	0.100	0.100
生野島	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.100	1.000	1.000	1.000	0.100	0.100	1.000	0.100
契島	2015→2020	0.100	0.100	0.100	2.000	2.000	0.833	0.100	0.100	1.000	0.500	1.333	0.500	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
山尻	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	2.000	2.000	1.000	0.100	2.000	1.500	1.000	1.000	1.000	0.833	1.000	1.000	0.667	0.100	0.100
東原下	2015→2020	1.072	2.000	1.000	0.750	0.333	1.000	0.750	1.500	0.909	1.250	1.000	1.000	1.083	1.000	1.000	0.750	0.800	1.000	0.100
原下	2015→2020	1.000	0.857	1.500	2.000	1.500	1.000	1.000	1.000	1.333	0.833	1.667	1.000	0.867	0.778	0.769	0.727	0.778	0.857	0.100
本郷	2015→2020	0.333	0.100	1.000	0.286	1.750	1.250	0.857	1.000	0.714	1.375	1.000	1.077	1.071	0.900	0.833	0.900	0.125	0.750	0.500
片浜	2015→2020	2.333	0.750	1.500	1.375	1.000	1.250	2.000	0.900	0.800	0.727	1.000	1.000	0.692	0.950	0.824	1.000	0.833	0.400	0.100
大西	2015→2020	0.800	1.600	0.923	1.667	0.500	0.889	1.214	1.200	1.167	1.000	1.000	0.895	1.000	0.929	0.952	0.786	0.813	0.444	0.250
向山	2015→2020	1.000	0.684	1.188	0.952	1.022	1.077	0.920	0.846	0.733	1.143	1.043	0.826	1.250	1.000	0.880	0.739	0.652	0.429	0.100
瀬井	2015→2020	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.100	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.500	1.000	1.000	0.250	1.000	0.500
原田	2015→2020	1.200	1.000	1.250	1.000	0.778	1.500	1.100	1.100	1.000	1.000	1.000	1.200	1.095	0.946	0.818	0.813	0.643	0.375	0.167
大串	2015→2020	1.072	0.857	1.000	1.333	1.000	0.991	1.400	1.600	1.091	1.000	1.429	1.000	1.438	1.111	0.867	0.765	0.846	0.400	0.167
岩白	2015→2020	0.500	1.000	1.000	1.000	0.250	1.500	0.100	1.000	1.000	1.000	2.000	0.667	0.833	1.100	1.000	0.714	0.400	0.100	0.100
宇浜	2015→2020	2.000	0.750	0.100	2.000	0.100	1.000	1.000	1.000	1.000	0.500	0.900	0.833	1.000	1.182	1.000	1.000	0.667	0.100	0.100
郷	2015→2020	0.100	0.100	1.000	0.667	1.167	0.167	0.625	0.400	0.500	1.250	0.286	1.000	1.000	0.769	0.571	0.333	0.100	0.500	0.500
天満	2015→2020	1.000	0.500	0.333	0.333	0.800	0.750	0.857	0.500	1.000	1.000	1.571	1.500	0.889	0.900	0.636	0.500	0.500	0.250	0.100
野賀	2015→2020	0.750	0.500	0.100	2.500	1.083	0.357	1.250	0.667	1.800	0.250	0.556	0.800	1.000	0.800	1.067	0.857	0.100	0.100	0.100
上の谷	2015→2020	0.100	1.000	1.000	1.500	2.000	0.100	0.100	1.000	1.500	0.800	1.000	0.857	0.500	1.000	0.800	0.714	0.400	0.500	0.100
中浜	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	2.000	2.000	1.000	1.200	1.167	0.900	0.800	0.500	0.111	0.100	0.100
木越	2015→2020	0.750	0.100	0.667	1.000	1.000	0.100	0.500	1.000	0.800	1.333	1.667	1.000	1.000	1.000	0.400	0.750	0.100	0.100	0.100
三里浜	2015→2020	1.072	0.100	1.000	0.400	1.500	0.991	1.000	0.961	1.000	0.667	1.000	1.500	0.833	0.800	1.000	0.875	0.556	0.500	0.500
向浜	2015→2020	1.000	1.000	0.100	0.100	0.100	0.500	2.000	0.100	0.100	2.000	1.000	1.000	1.200	1.000	0.700	1.000	0.571	0.250	0.100
本浜	2015→2020	0.100	1.000	1.000	1.000	0.500	0.100	0.100	0.100	0.750	0.100	1.000	1.200	1.375	1.333	1.000	1.000	0.900	0.667	0.100
岡部	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.500	1.000	1.000	0.100	1.000	1.200	1.000	1.143	1.000	0.875	0.800	0.400	0.100

注）**緑色**：2.0以上（増加）、**赤色**：1.0以上2.0未満（増加）、**橙色**：1.0未満（減少）

●表の読み方

- 例えば、山尻地区の女性・35-39歳のコーホート変化率0.500の場合
⇒2020年に35-39歳人口が8人の場合、5年後の2025年は30-34歳人口は4人（5年間の転出＋転入が含まれる）

●コーホート変化率の活用における留意事項

- 2015⇒2020の5年間のトレンド（変化率）が将来においても同様として計算しています。
- 2015⇒2020の5年間のトレンド（変化率）が0又はエラーの場合、0.1として計算しています。

地区	期間	女性 0～4歳	女性 5～9歳	女性 10～14歳	女性 15～19歳	女性 20～24歳	女性 25～29歳	女性 30～34歳	女性 35～39歳	女性 40～44歳	女性 45～49歳	女性 50～54歳	女性 55～59歳	女性 60～64歳	女性 65～69歳	女性 70～74歳	女性 75～79歳	女性 80～84歳	女性 85～89歳	女性 90～94歳
外表	2015→2020	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	0.500	1.000	1.000	1.000	0.750	0.667	1.000	1.000	0.778	1.000	0.769	0.750	0.700	1.000
峠崎	2015→2020	0.667	0.100	1.000	1.000	0.100	0.100	0.500	1.000	0.100	1.000	0.100	1.200	1.000	1.000	0.818	1.000	0.750	1.000	0.333
垂水	2015→2020	0.750	1.000	1.000	1.100	0.800	0.600	1.000	0.750	0.875	0.900	1.000	1.000	0.941	0.926	0.889	0.955	0.750	0.636	0.714
古江	2015→2020	1.000	0.100	0.100	0.100	1.500	2.000	1.000	1.000	2.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.154	0.917	0.846	0.800	0.500	0.286
盛谷	2015→2020	1.667	2.000	1.000	0.333	0.667	0.333	2.000	0.333	1.000	1.200	1.125	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.875	0.769	0.375
白水	2015→2020	0.100	0.667	0.500	0.500	0.750	0.625	1.000	0.333	0.556	0.875	1.000	1.000	1.000	1.000	0.947	0.923	0.889	0.500	0.400
小原	2015→2020	0.100	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	1.000	1.000	2.000	1.000	1.000	1.000	0.625	0.750	1.000	1.000
上組	2015→2020	0.100	0.100	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	2.000	0.100	1.000	1.500	0.100	1.000	1.000	0.833	1.000	1.000	0.750	0.667
下組	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.100	0.100	1.000	1.000	1.000	0.100	1.000	0.100	1.000	0.667	2.000
矢弓	2015→2020	0.667	0.100	0.100	1.000	0.667	0.600	0.600	1.000	0.500	1.000	1.000	0.667	0.833	1.000	1.000	1.000	0.900	0.286	0.875
大田	2015→2020	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.667	0.667	1.000	0.100
脇之浦	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.333	0.100
生野島	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	1.000	0.100	0.100	1.000	0.100	1.000	1.000	0.100	1.000
契島	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.500	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
山尻	2015→2020	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.500	0.100	0.100	1.000	0.100	2.000	0.833	0.500	0.750	0.500	0.500	1.000
東原下	2015→2020	0.100	1.500	1.800	0.417	0.500	2.000	0.750	1.333	0.833	1.000	1.200	0.917	1.000	0.944	0.900	0.833	0.727	0.556	0.333
原下	2015→2020	1.500	0.500	0.714	0.571	0.500	0.800	1.500	0.667	1.200	1.000	0.750	0.900	1.063	0.957	1.000	0.933	0.684	0.556	0.750
本郷	2015→2020	1.000	1.000	0.800	0.500	0.167	1.048	1.000	2.000	1.000	1.000	0.857	1.067	1.000	1.000	0.900	0.625	0.857	0.600	0.333
片浜	2015→2020	1.000	0.833	0.100	0.429	1.667	1.000	1.000	1.100	1.000	1.250	1.000	1.000	1.000	0.958	0.895	0.800	0.714	0.556	0.571
大西	2015→2020	0.556	0.923	1.200	0.700	0.333	1.000	0.833	1.091	0.833	1.091	1.100	0.923	1.000	1.000	0.964	0.938	0.808	0.667	0.462
向山	2015→2020	0.955	0.885	0.857	0.950	0.750	1.125	1.200	0.870	0.917	0.957	0.850	0.913	0.900	1.088	0.970	0.800	0.756	0.542	0.667
瀬井	2015→2020	0.500	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	0.500	1.000	1.000	0.100	1.000	1.000	1.000	0.667	1.333	1.000	1.000	1.000	0.600
原田	2015→2020	1.000	1.667	1.125	0.250	0.750	0.750	1.250	1.000	1.143	1.091	1.143	1.154	1.036	0.914	1.000	0.840	0.900	0.708	0.692
大串	2015→2020	2.000	1.250	1.000	1.125	2.333	1.048	0.100	1.500	1.222	1.000	1.500	1.222	1.176	1.000	0.895	1.000	0.659	0.567	0.810
岩白	2015→2020	1.500	1.000	2.000	0.100	0.100	0.100	2.000	1.000	1.000	1.000	0.667	1.000	1.200	0.900	0.909	0.750	0.100	0.200	0.500
宇浜	2015→2020	2.000	1.000	1.000	0.500	0.667	0.100	1.174	0.750	1.000	1.000	1.000	1.000	0.833	1.000	0.909	0.727	0.286	0.375	
郷	2015→2020	1.000	0.100	0.100	0.500	0.667	0.500	1.500	0.100	2.000	0.857	1.000	1.167	1.000	1.083	0.938	0.846	0.667	0.643	1.000
天満	2015→2020	0.100	2.000	0.167	1.000	0.747	0.750	1.000	0.714	1.000	0.800	1.000	1.000	0.900	1.000	0.857	1.000	0.700	0.692	0.429
野賀	2015→2020	0.333	1.200	0.500	0.500	0.500	2.000	1.667	0.714	0.667	0.833	1.000	1.000	0.833	0.857	0.727	0.750	0.100	0.250	
上の谷	2015→2020	0.100	0.100	1.500	0.100	0.100	0.100	1.174	1.500	1.000	0.500	1.000	1.000	1.250	1.167	0.900	0.929	1.125	0.600	0.714
中浜	2015→2020	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	0.667	1.333	1.000	0.917	1.000	0.800	0.167	0.500	0.100
木越	2015→2020	0.100	1.000	1.000	0.100	1.000	0.100	1.000	2.000	0.750	0.600	1.000	1.000	1.000	1.000	0.857	1.000	0.714	1.000	0.333
三里浜	2015→2020	0.100	1.000	1.000	0.100	0.667	1.500	1.000	0.500	2.500	1.000	1.000	1.000	1.000	0.846	0.889	1.100	0.545	0.333	
向浜	2015→2020	1.000	0.100	1.000	0.672	1.000	0.100	1.500	1.500	1.000	2.000	1.000	1.000	1.000	0.833	0.833	0.875	0.667	0.909	0.333
本浜	2015→2020	0.100	1.000	0.100	1.000	0.100	0.100	0.100	1.000	1.000	0.100	1.000	0.667	1.167	1.000	1.000	0.727	0.889	0.455	0.333
岡部	2015→2020	1.000	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	1.000	0.100	1.000	1.000	1.250	1.000	1.000	1.000	1.000	0.929	0.778	0.417	0.750

注）**緑色**：2.0以上（増加）、**赤色**：1.0以上2.0未満（増加）、**橙色**：1.0未満（減少）

●表の読み方

・例えば、山尻地区の2020年実績0.33は0-4歳人口1人/20-44歳女性人口3人により算出しています。

●子ども女性比の活用における留意事項

- ・2015⇒2020の5年間のトレンド（子ども女性比）をベースに、将来の子ども女性比を推計しています。
- ・2015⇒2020の5年間のトレンド（子ども女性比）が0又はエラーの場合、0.1として計算しています。

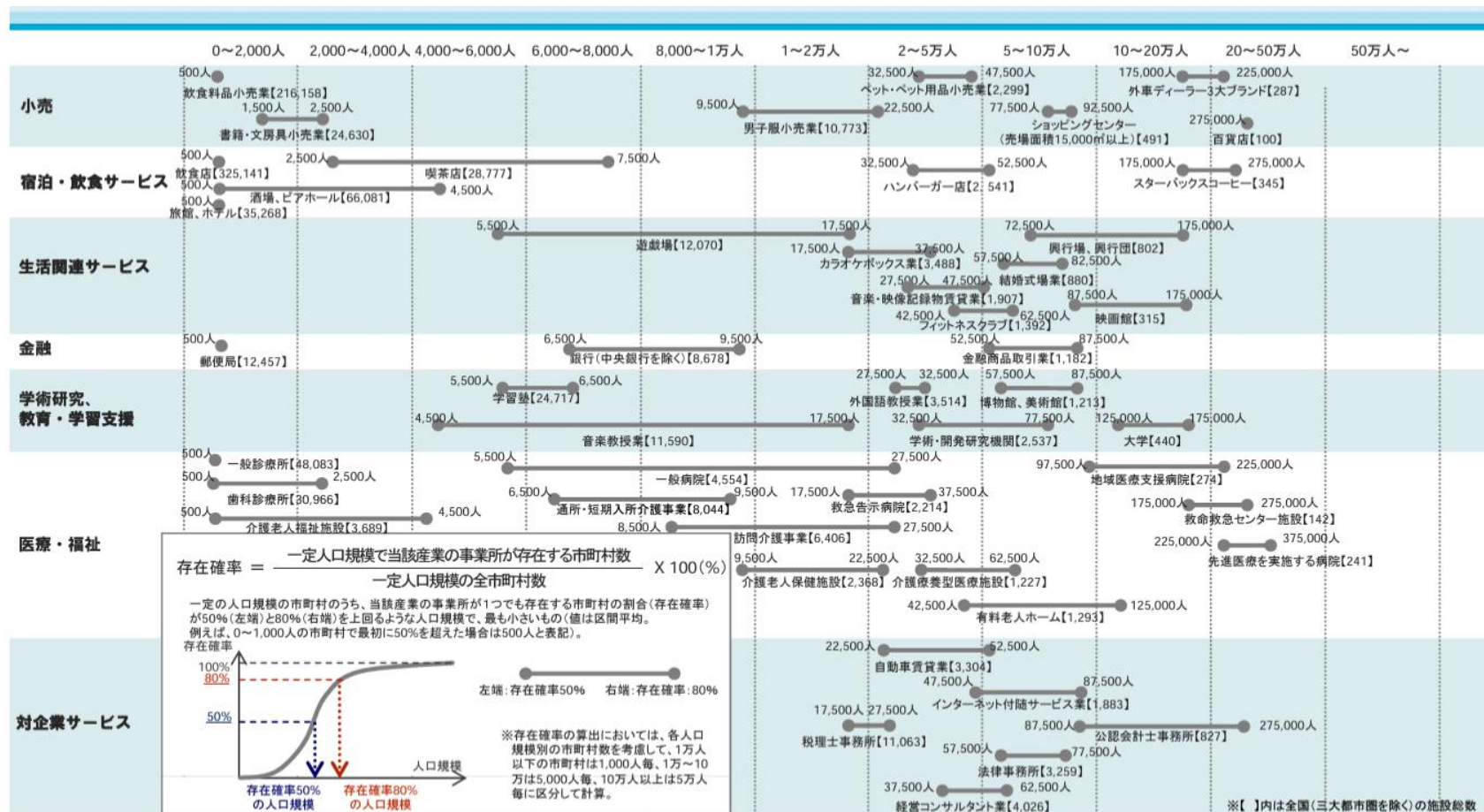
地区	2020年人口（人）		子ども女性比									
	0～4歳	20～44歳女性	2020年実績	2025補正	2030	2035	2040	2045	2050			
外表	3	9	0.33	0.37	0.38	0.39	0.39	0.39	0.38			
鯉崎	1	3	0.33	0.37	0.38	0.39	0.39	0.39	0.38			
垂水	12	35	0.34	0.38	0.39	0.40	0.40	0.40	0.39			
古江	2	10	0.20	0.22	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23			
盛谷	1	13	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09			
白水	4	13	0.31	0.34	0.35	0.36	0.36	0.36	0.35			
小原	0	1	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12			
上組	1	3	0.33	0.37	0.38	0.39	0.39	0.39	0.38			
下組	0	1	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12			
矢弓	3	12	0.25	0.28	0.28	0.29	0.29	0.29	0.29			
大田	0	1	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12			
脇之浦	0	0	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12			
生野島	0	0	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12			
契島	0	1	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12			
山尻	1	3	0.33	0.37	0.38	0.39	0.39	0.39	0.38			
東原下	7	19	0.37	0.41	0.42	0.43	0.43	0.43	0.42			
原下	5	22	0.23	0.25	0.26	0.26	0.26	0.27	0.26			
本郷	8	11	0.73	0.81	0.83	0.85	0.84	0.85	0.84			
片浜	7	35	0.20	0.22	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23			
大西	8	31	0.26	0.29	0.29	0.30	0.30	0.30	0.30			
向山	31	90	0.34	0.38	0.39	0.40	0.40	0.40	0.40			
瀬井	2	3	0.67	0.74	0.76	0.78	0.77	0.78	0.77			
原田	4	21	0.19	0.21	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22			
大串	6	44	0.14	0.15	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16			
岩白	2	6	0.33	0.37	0.38	0.39	0.39	0.39	0.38			
宇浜	1	9	0.11	0.12	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13			
郷	1	9	0.11	0.12	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13			
天満	4	15	0.27	0.30	0.30	0.31	0.31	0.31	0.31			
野賀	5	14	0.36	0.40	0.41	0.42	0.41	0.42	0.41			
上の谷	1	6	0.17	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19			
中浜	3	4	0.75	0.83	0.85	0.87	0.87	0.88	0.86			
木越	3	8	0.38	0.42	0.43	0.44	0.43	0.44	0.43			
三里浜	6	8	0.75	0.83	0.85	0.87	0.87	0.88	0.86			
向浜	5	10	0.50	0.56	0.57	0.58	0.58	0.58	0.58			
本浜	0	2	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12			
岡部	1	4	0.25	0.28	0.28	0.29	0.29	0.29	0.29			

- ・人口変化が地域に与える影響とその対応策は以下のとおりです。
- ・生活関連サービス施設、学校の運営、地域コミュニティに着目すれば、人口減少度合いの緩和が望めます。

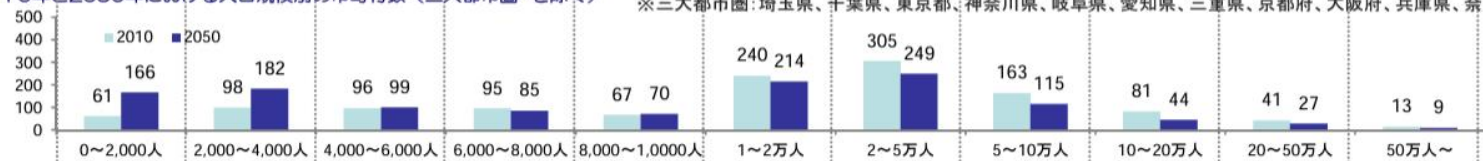
想定される影響の項目	需要側の対応策（人口等）	供給側の対応策（施設等）
生活関連サービス施設(小売・飲食・娯楽・医療機関等)の減少	・人口規模別の生活関連サービス施設の立地する確率より、4,500人の人口規模を維持することが望ましい	・デジタル活用による生産性向上 等
就業機会の減少	・地元企業の求人の掘り起し ・地元企業のインターンシップの設計 等	・デジタル活用による生産性向上 等
行政サービスの低下	・中心部の人口密度の維持 等	・公共施設の再配置(集約・縮小等)による行政サービスの最適化 等
地域公共交通の撤退・縮小	・公共交通沿線の人口密度の維持 等	・オンデマンド交通やライドシェアの導入、航路・バス・タクシーの自動運転化等の対応 等
空き家・耕作放棄地の増加	・大崎上島町のファンを対象とした週末農業、二拠点居住の推進 等	・空き家・耕作放棄地の地権者との調整による利活用の方針検討 等
学校の運営	・年少人口の人口減少度合いの緩和 等	・少人数教育による子どもの教育の質の向上 等
地域コミュニティの機能低下	・コミュニティの人口減少度合いの緩和 ・コミュニティの自治力・共助力を高めることにより、機能の維持を図る ・大崎上島町のファンを増やすことにより、新たな担い手を確保 等	---

大崎上島町の人口変化

2100年 1,822人
2050年 3,903人
2020年 7,158人



(参考) 2010年と2050年における人口規模別の市町村数(三大都市圏を除く)



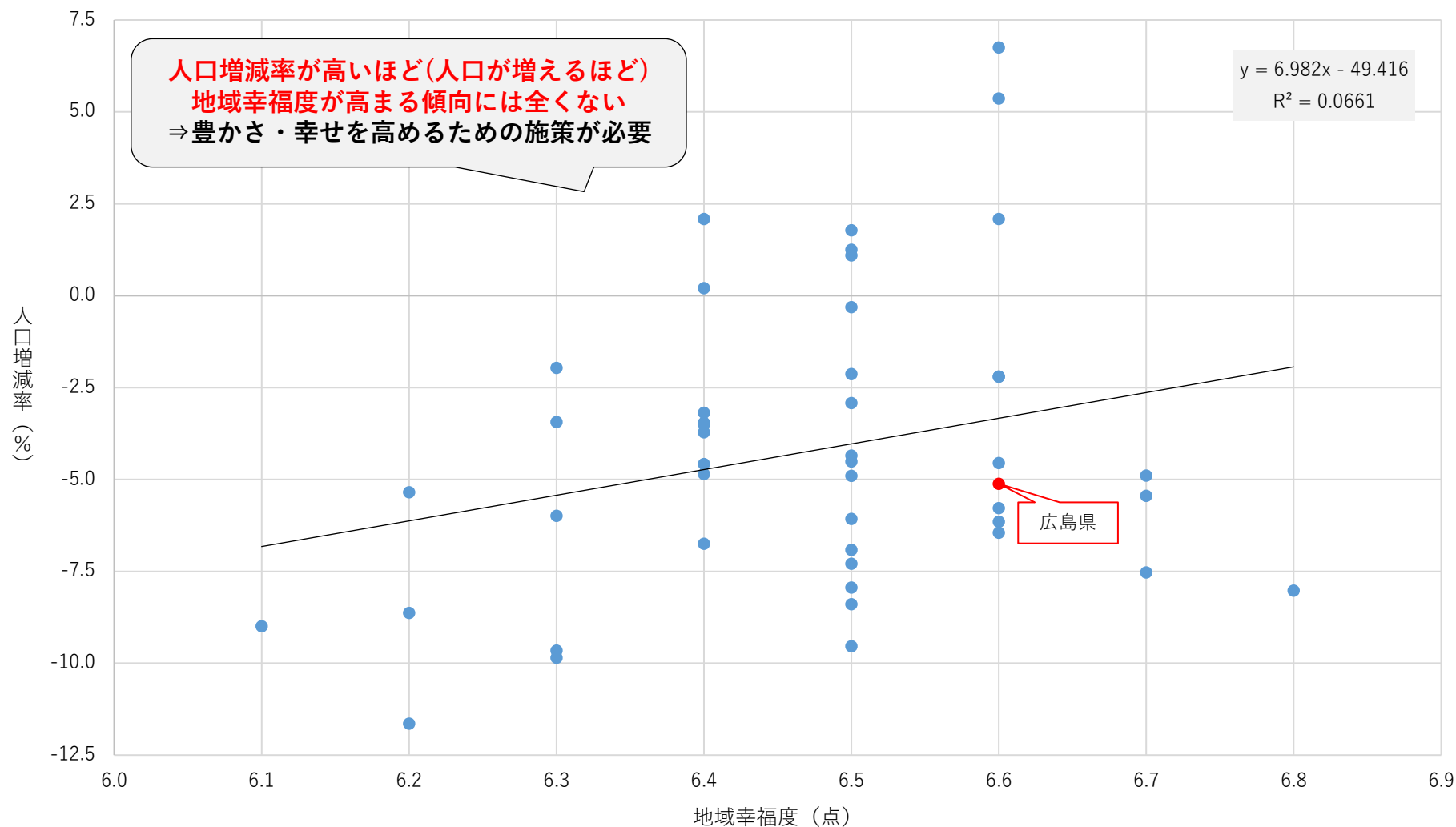
(注1) 2050年の市町村別人口は、国土交通省国土政策局推計値

(注2) 2010年、2050年ともに、人口規模別の市町村数は、平成22(2010)年12月1日現在の三大都市圏を除く1,260市区町村を基準に分類

(出典) 総務省「平成21年度経済センサス」、厚生労働省「医療施設調査 病院報告(平成24年10月)」、同「介護サービス施設・事業所調査(平成24年10月)」日本救急医学会HP、wellnes HP、日本ショッピングセンター協会資料、日本百貨店協会HP、メルセデスベンツ・フォルクスワーゲン・BMW各HP、スターバックスコーヒージャパン資料をもとに、国土交通省国土政策局作成

- ・ここでは、町民の豊かさの指標として幸福度を設定し、人口変化との関連性を検証してみました。
⇒全国の都道府県の人口増減率（2010年⇒2020年）と幸福度（2024年）の相関を確認したところ、両指標は無相関
- ・町民の生活・居場所やコミュニティを守るためには、人口減少度合いの緩和が必要ですが、町民の豊かさ・幸せを高めるためには人口減少対策以外の施策も必要のため、次頁でその方針を検討します。

■全国の都道府県の人口増減率（2010年⇒2020年）と地域幸福度（2024年）の関係性



【個人と幸福度の関係性】

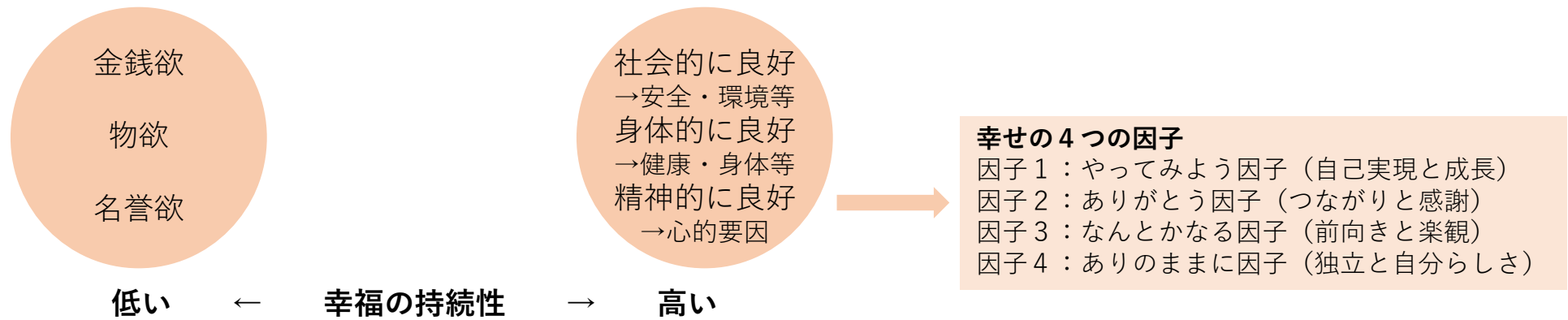
- ・世界保健機関（WHO）が1946年に定めた「世界保健機関憲章」では、ウェルビーイング（幸福度と同義）とは、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態」と定義しています。
- ・幸福度は「地位財型」・「非地位財型」が存在し、「非地位財型」の方が幸福の持続性が高いといわれています。また、心的要因として、**幸せの4つの因子（自己実現と成長、つながりと感謝、前向きと楽観、独立と自分らしさ）を満たす人は幸福であることも指摘されており、こうした4つの因子を高めることが重要です。**

地位財型の幸せ

（他人との比較により満足を得るもの）

非地位財型の幸せ

（他人との相対比較とは関係ない幸せ）



幸せの4つの因子

- 因子1：やってみよう因子（自己実現と成長）
- 因子2：ありがとう因子（つながりと感謝）
- 因子3：なんとかなる因子（前向きと楽観）
- 因子4：ありのままに因子（独立と自分らしさ）

出典：上記の知見は、前野隆司「幸せのメカニズム 実践・幸福学入門」,講談社現代新書,2013.を参考に整理

【コミュニティと幸福度の関係性】

- ・**コミュニティの共助に係る4つの因子と町民の幸福度には相関関係がある**ことが明らかになりました。
→町民意識調査結果（令和5年実施）を活用して、統計的な分析を実施
- ・また、**幸せは周囲の人に連鎖することが知られており（幸せな人に合うと15.3%幸せになる確率向上、幸せな人にあつた人に合うと5.6%幸せになる確率向上）、こうした4つの因子を高めることは、町民の総和としてのコミュニティの幸福度を高めることに寄与します。**

①同じ集落に住む人たちを信頼している

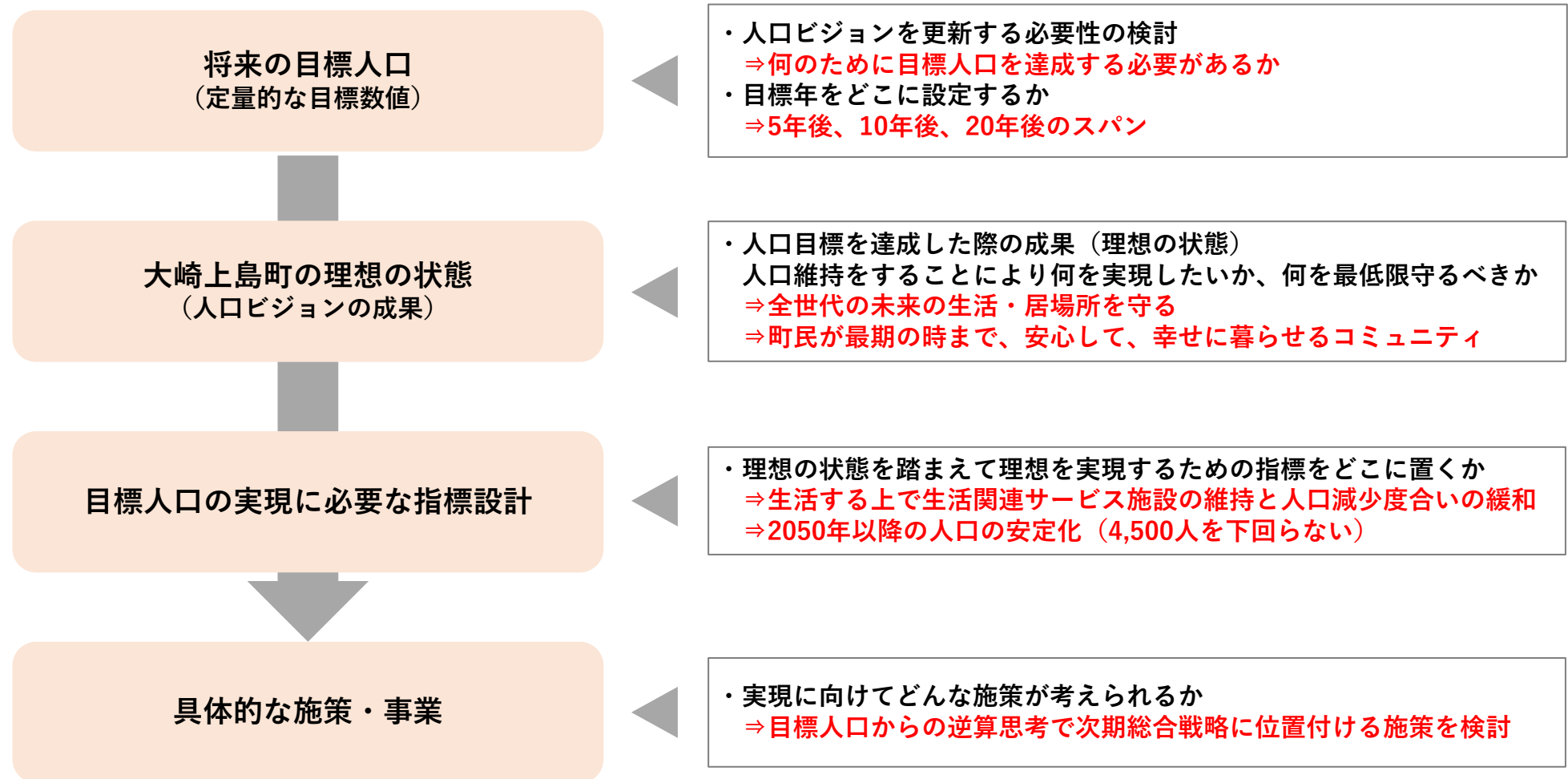
②困ったときに相談できる人が身近にいる

③集落の人が困っていたら手助けをする

④この集落に対して愛着を持っている

4つの因子（＝共助力）と幸福度には関連あり

注：町民意識調査結果（令和5年実施）を活用して、幸福度とコミュニティに関わる設問（問8・問11）の関連性を統計分析により検証
幸福度と各設問のクラメールの連関係数（0～1の幅をとり、0.1を超えれば関連性ありと判断可能）が0.1を超える設問は、上記の①～④であった



●総合戦略の政策の効果が発現する年度

- ・2025年度から次期総合戦略がスタートするため、**政策の効果が発現する年度は2028年度以降**として設定します。
→2025年度～2027年度の3ヵ年は次期総合戦略の準備期間（一部取組・事業は実施済み）として扱う

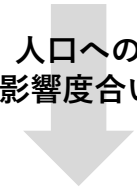
●人口シミュレーションの進め方

- ・以下に示す2つのステップにより、目標人口の設計に向けたシミュレーションを実施します。
- ・**シミュレーションに際しては、徐々に政策の実行の強度を高めていき、実現可能な政策のラインを探索**します。
→STEP1：2050年までに目標人口4,500人を達成できる政策シナリオを検討
→STEP2：2050年の目標人口の2055年以降（2070年まで）の安定化を検討

●転出抑制・転入促進に係る政策シナリオの設定

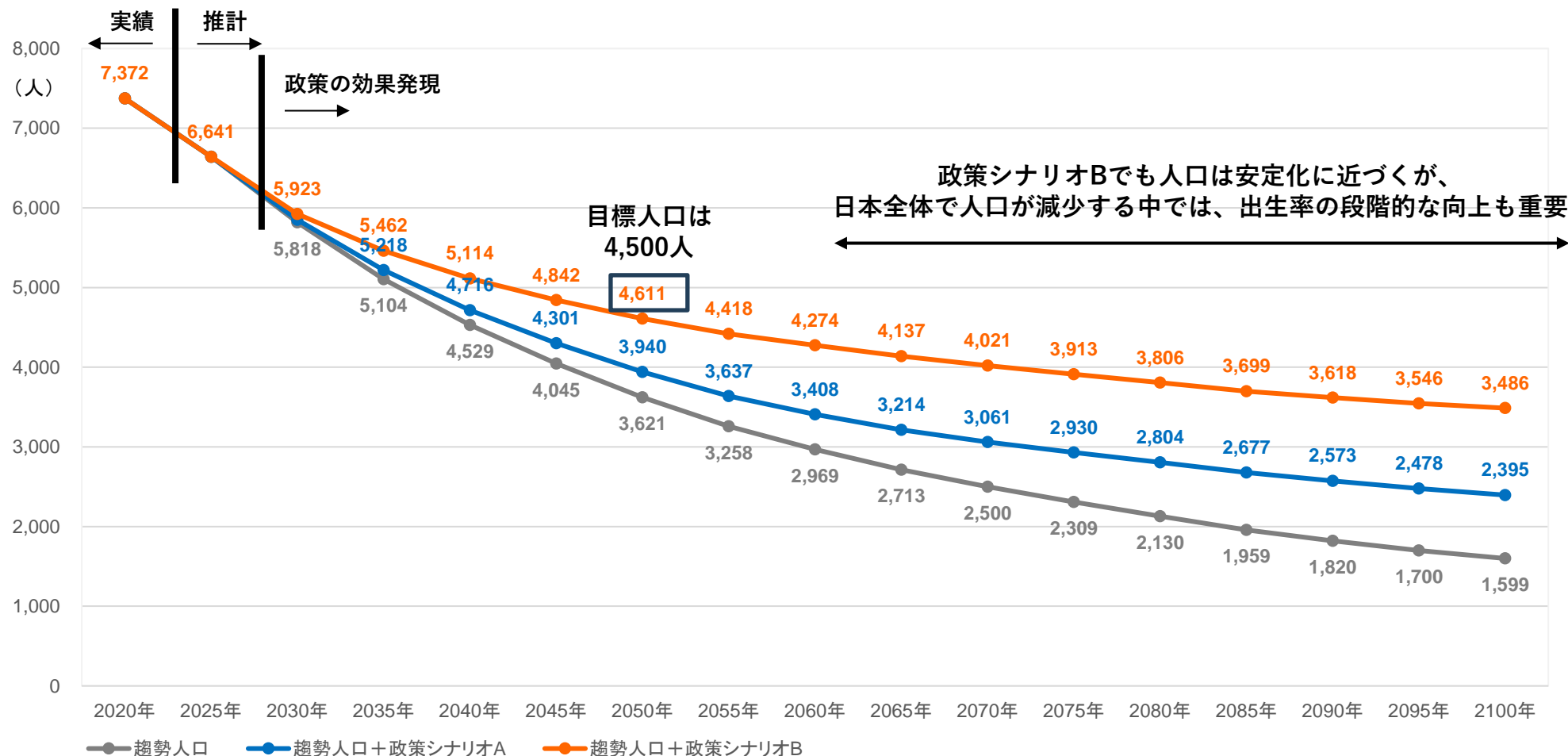
- ・転出抑制・転入促進に係る政策シナリオとして、以下のシナリオA・シナリオBを設定します。
- ・**人口シミュレーションでは、目標人口4,500人の達成に必要な政策シナリオの強度を検証**します。

■人口シミュレーションによる政策の実行の強度イメージ

政策シナリオ		シミュレーションの設定
パターン	考え方	
シナリオA	 人口への 影響度合い	・5年間で、各地区夫婦1組（男性30-34歳1名、女性30-34歳1名）の転出抑制又は転入抑制
シナリオB		・5年間で、各地区ファミリー世帯1組（男性30-34歳1名、女性30-34歳1名、0-4歳1名）、子育てがひと段落した世帯2組（男性55-59歳1名・女性55-59歳1名、男性60-64歳1名、女性60-64歳1名）の転出抑制及び転入促進

- ・2050年の目標人口を約4,500人とした場合、逆算でシミュレーションすると、政策シナリオB程度の政策強度が必要です。
- ・但し、日本全体で人口が減少中、移住施策のみでは持続可能性が低く、出生率も段階的に向上することが重要です。

■目標人口の達成に向けたシミュレーション



趨勢人口：これまでの施策だけではの将来人口

政策シナリオA【年間約14人（5年計72人）の転出抑制又は転入促進】

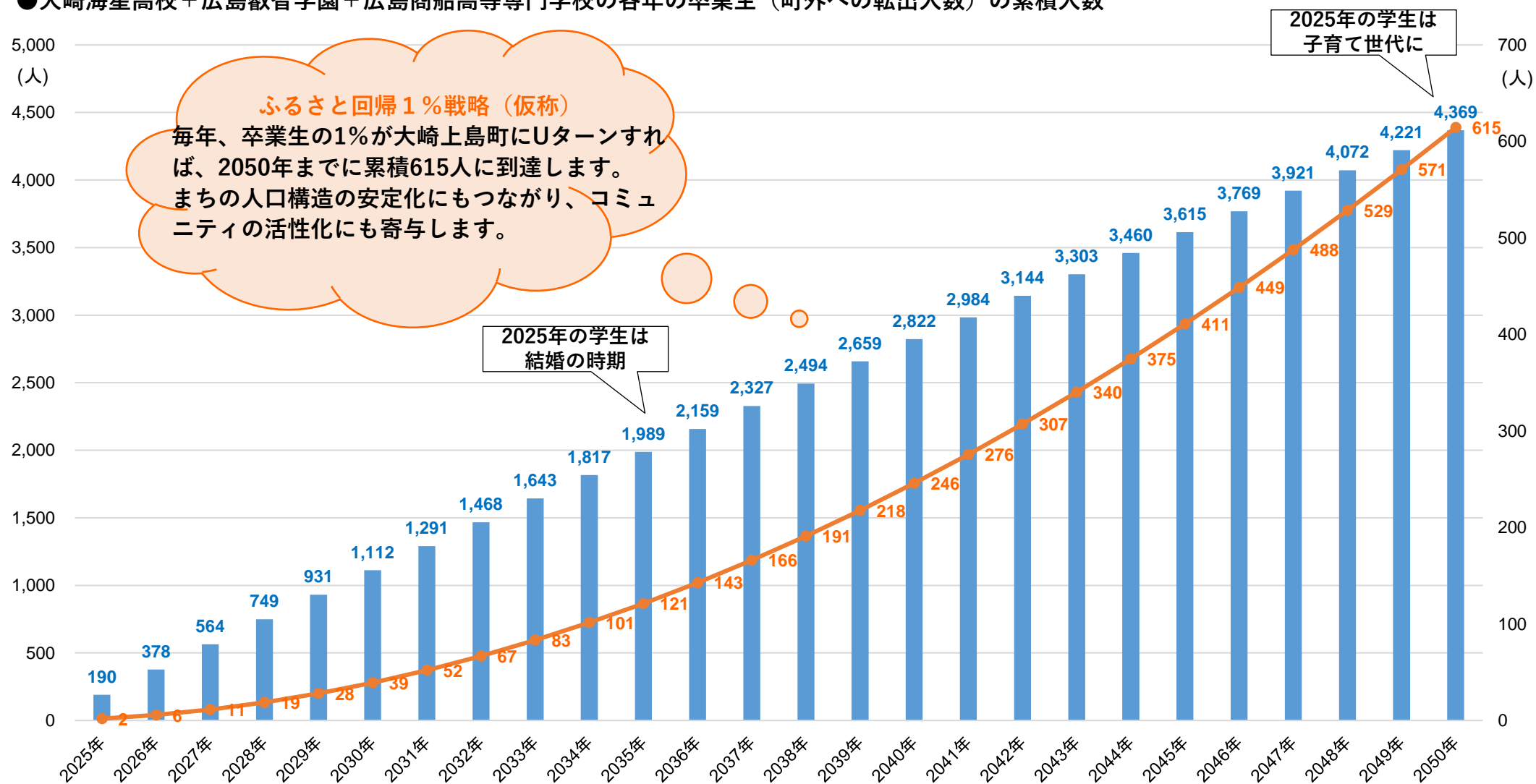
：5年間で、各地区夫婦1組（男性30-34歳1名、女性30-34歳1名）の転出抑制又は転入促進

政策シナリオB【年間約50人（5年計252人）の転出抑制又は転入促進】

：5年間で、各地区ファミリー世帯1組（男性30-34歳1名、女性30-34歳1名、0-4歳1名）、子育てがひと段落した世帯2組（男性55-59歳1名・女性55-59歳1名、男性60-64歳1名、女性60-64歳1名）の転出抑制又は転入促進

- ・ 高校生の多くが、卒業と同時に町外に転出しますが、ふるさとと卒業生たちをデジタルプラットフォーム（LINE想定）でつなぎ、定期的な情報発信により、関係人口化を図ると共に、ライフステージの各タイミングでUターンを促します。

●大崎海星高校＋広島叡智学園＋広島商船高等専門学校の各年の卒業生（町外への転出人数）の累積人数



■ : 大崎海星高校（毎年25人卒業想定）＋広島叡智学園（毎年45人卒業想定）＋広島商船高等専門学校（毎年120人卒業想定）の各年の卒業生の累積人数（Uターン除く）

● : 大崎海星高校（毎年25人卒業想定）＋広島叡智学園（毎年45人卒業想定）＋広島商船高等専門学校（毎年120人卒業想定）の各年の卒業生の累積人数の1%の累積人数